

SANUPS

UPS管理システム

SANUPS SOFTWARE

インストールガイド

SANYO DENKI

- ※ **Windows**は、米国**Microsoft Corporation**の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ※ **Solaris**は、**Oracle Corporation** およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ※ **HP-UX**は、米国**Hewlett-Packard Company**のオペレーティング システムの名称です。
- ※ **AIX**は、米国**International Business Machines Corp.**の登録商標です。
- ※ **Linux**は**Linus Torvalds**氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- ※ **Java**および全ての**Java**関連の商標およびロゴは、**Oracle Corporation** およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ※ **VMware、ESX Server**は、米国およびその他の地域における**VMware, Inc.**の登録商標または商標です。
- ※ その他の製品名、社名は各社の登録商標または商標です。
- ※ **Microsoft Corporation**のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

おことわり

- (1) 本ソフトウェアおよび本書の一部または全部を、許可なく複製、転載することは、かたくお断りいたします。
- (2) 本製品の内容につきましては万全を期して検査を行っておりますが、万一、お気づきの点がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。
- (3) 本製品の内容は、予告なく変更される場合があります。
- (4) 本製品の運用に際しては、本取扱説明書をよくお読みになって、機能を理解した上で御使用ください。本製品を使用したことによる結果につきましては、責任を負いかねますので、ご了承ください。

お問い合わせ先

山洋電気株式会社 パワーシステム事業部 設計第2部
UPS管理ソフト ユーザ係
FAX 0268-37-1732
E-mail sanguard_support@sanyodenki.co.jp

目次

1. はじめに.....	1
1.1 動作環境.....	1
1.1.1 Windowsの場合	1
1.1.2 Solarisの場合	2
1.1.3 HP-UXの場合	4
1.1.4 AIXの場合	4
1.1.5 Linuxの場合.....	5
2. インストールを行う前に.....	7
2.1 UPSの動作モード確認.....	7
2.2 UPSとの通信接続.....	7
2.3 コンピュータの接続方法の確認.....	8
3. インストール.....	10
3.1 Windowsの場合.....	10
3.1.1 インストールプログラムの起動.....	10
3.1.2 製品のライセンス.....	12
3.1.3 ユーザ情報の入力.....	12
3.1.4 インストール先フォルダの確認.....	13
3.1.5 プログラムフォルダの選択.....	13
3.1.6 ファイル コピーの開始の確認.....	14
3.1.7 ファイルのコピー（インストールの実行）	14
3.1.8 インストールの終了	14
3.2 Solarisの場合	16
3.2.1 インストールプログラムの起動.....	16
3.2.2 インストール.....	17
3.2.3 コンピュータの再起動.....	19
3.3 HP-UXの場合	20
3.3.1 インストールプログラムの起動.....	20
3.3.2 インストール.....	21
3.3.3 コンピュータの再起動.....	22
3.4 AIXの場合	23
3.4.1 インストールプログラムの起動.....	23
3.4.2 インストール.....	23
3.4.3 コンピュータの再起動.....	24

3.5 Linuxの場合.....	25
3.5.1 インストールプログラムの起動.....	25
3.5.2 インストール.....	27
3.5.3 コンピュータの再起動.....	28
4. セットアップ.....	29
4.1 設定ウィザード機能（GUI版設定ツール）.....	29
4.1.1 UPSとサーバ接続した場合のセットアップ.....	30
4.1.2 UPSとクライアント接続した場合のセットアップ.....	41
4.1.3 UPSとネットワーク接続した場合のセットアップ.....	50
4.2 設定ウィザード機能（CUI版設定ツール）.....	60
4.2.1 接続UPSの登録（セットアップ）について.....	60
5. SANUPS SOFTWAREの動作について.....	75
6. アンインストール.....	75
6.1 Windowsの場合.....	75
6.2 Solarisの場合.....	77
6.3 HP-UXの場合.....	78
6.4 AIXの場合.....	79
6.5 Linuxの場合.....	80
付録A Windows版をお使いになる際の注意事項.....	81
付録B Linux版をお使いになる際の注意事項.....	87
付録C UNIX版をお使いになる際の注意事項.....	93

はじめに

1. はじめに

SANUPS SOFTWAREは、UPSと組み合わせて使用するソフトウェアです。

停電などの電源異常発生時にコンピュータを安全に自動シャットダウンすることができます。

また、UPSの状態監視、状態履歴確認を行うことができます。

このマニュアルでは、**SANUPS SOFTWARE**のインストールおよびセットアップについての説明をしています。

1.1 動作環境

SANUPS SOFTWAREは、各種オペレーティングシステムに対応しています。それぞれ動作環境が異なりますので、お使いのオペレーティングシステムに関する項目を参照してください。

1.1.1 Windows の場合

(1) ハードウェア

CPU	: x86/x64: Intel Pentium互換プロセッサ (PentiumⅢ以上を推奨) Itanium: Itanium2以上のプロセッサ
メモリ	: 128Mバイト以上 (256Mバイト以上を推奨します)
ディスク容量	: 120Mバイト以上の空き容量
ディスプレイ	: 解像度800×600/256色以上

(2) ソフトウェア

動作OS	: Windows 2000 Professional / Server / Advanced Server Windows XP Professional / Home Edition Professional x64 Edition Windows Server 2003 Standard Edition / Enterprise Edition Standard x64 Edition / Enterprise x64 Edition Enterprise Edition for Itanium-based systems Windows Server 2003 R2 Standard Edition / Enterprise Edition Standard x64 Edition / Enterprise x64 Edition Windows Vista Business Edition / Ultimate Edition / Enterprise Edition Business 64-bit Edition / Ultimate 64-bit Edition Enterprise 64-bit Edition Windows Server 2008 ^(※1) Standard / Enterprise Windows Web Server 2008 ^(※1) Windows Server 2008 for Itanium-based Systems ^(※2)
------	--

Windows 7 ^(※3)
Professional / Ultimate / Enterprise
Windows Server 2008 R2 ^(※4)
Standard / Enterprise
Windows Web Server 2008 R2 ^(※4)
Windows 8 ^(※3)
Windows 8 / Windows 8 Pro / Windows 8 Enterprise
Windows Server 2012 ^{(※4) (※5)}
Essentials / Standard / Datacenter

(※1) x86版, x64版に対応しています。Server Core にも対応しています。

(※2) Full installationのみの対応となります。

(※3) x86版, x64版に対応しています。

(※4) Server Core にも対応しています。

(※5) LANインタフェースカードに接続して使用する場合は、
「4.1.3 UPSとネットワーク接続した場合のセットアップ」の
「Windows OSをECN機能「有効」でお使いになる場合の注意事項」を参照してからお使いください。

1.1.2 Solarisの場合

SPARC版

(1) ハードウェア

コンピュータ本体 : Oracle社製 (Sun Microsystems社製) ワークステーション
CPU : ULTRA SPARC
メモリ : 128Mバイト以上 (256Mバイト以上を推奨します)
ディスク容量 : 120Mバイト以上の空き容量
ディスプレイ : 解像度800×600/256色以上
(Java版のツールを使用する場合)

(2) ソフトウェア

動作OS : Solaris 8 ^{(※1) (※2) (※3)}、9 ^{(※1) (※3)}、10 ^{(※1) (※3)}、11 ^(※3)

(※1) 日本語版インストールの場合、日本語環境 (EUC) がインストールされている必要があります。

(※2) Solaris 8(10/00) 版以降を推奨。

(※3) ご使用の環境によっては、Solaris OSにパッケージの追加インストールが必要になります。「付録C UNIX版をお使いになる際の注意事項」の「Solaris版のご使用にあたって」を確認していただき、必要なパッケージをインストールしてから、動作させてください。

はじめに

×86版

(1) ハードウェア

CPU	: x86/x64: Intel Pentium互換プロセッサ (PentiumⅢ以上を推奨)
メモリ	: 256Mバイト以上 (512Mバイト以上を推奨します)
ディスク容量	: 120Mバイト以上の空き容量
ディスプレイ	: 解像度800×600／256色以上 (Java版のツールを使用する場合)

(2) ソフトウェア

動作OS : Solaris 10^(※4) ^(※5) ^(※6)、11^(※6)

(※4) 日本語版インストールの場合、日本語環境 (EUC) がインストールされている必要があります。

(※5) Solaris 10(1/06) 版以降を推奨。

(※6) ご使用の環境によっては、Solaris OSにパッケージの追加インストールが必要になります。「付録C UNIX版をお使いになる際の注意事項」の「Solaris版のご使用にあたって」を確認いただき、必要なパッケージをインストールしてから、動作させてください。

1.1.3 HP-UXの場合

(1) ハードウェア

コンピュータ本体 : **Hewlett-Packard**社製ワークステーション
CPU : **PA-RISC 1.1** 以上のプロセッサ
 Itanium: Itanium2以上のプロセッサ
メモリ : 128Mバイト以上 (256Mバイト以上を推奨します)
ディスク容量 : 150Mバイト以上の空き容量
ディスプレイ : 解像度800×600/256色以上
 (Java版のツールを使用する場合)

(2) ソフトウェア

動作OS ^(※1) : **HP-UX 11i v1** ^(※2)
 HP-UX 11i v2 for Itanium
 HP-UX 11i v3 for Itanium
 (最新Support Plusパッチのインストールを推奨)
(※1) 日本語版インストールの場合、日本語環境 (SJIS) がインストールされている必要があります。
(※2) リンカー (ld) のパッチが適用されている必要があります。
 パッチIDは以下のとおりです。
 ・ **HP-UX 11i v1 PHSS_26263** 以降

※Java版のツールを使用して日本語が正しく表示されない場合、OS側にパッチが必要となります。

Java環境に必要なパッチは、以下のサイトをご参照ください。

<http://www.hp.com/products1/unix/java/patches/index.html>.

1.1.4 AIXの場合

(1) ハードウェア

コンピュータ本体 : **IBM**社製ワークステーション
CPU : **PowerPC (604e)**以降)
メモリ : 128Mバイト以上 (256Mバイト以上を推奨します)
ディスク容量 : 110Mバイト以上の空き容量
ディスプレイ : 解像度800×600/256色以上
 (Java版のツールを使用する場合)

(2) ソフトウェア

動作OS ^(※1) : **AIX 5.1、5.2、5.3、6.1、7.1**
 (最新Update CDのインストールを推奨)
(※1) 日本語版インストールの場合、日本語環境 (SJIS) がインストールされている必要があります。

はじめに

1.1.5 Linuxの場合

(1) ハードウェア

CPU	: x86/x64: Intel Pentium 互換プロセッサ (PentiumⅢ 以上を推奨) Itanium: Itanium2 以上のプロセッサ
メモリ	: 128Mバイト以上(256Mバイト以上を推奨します)
ディスク容量	: 130Mバイト以上の空き容量
ディスプレイ	: 解像度800×600/256色以上 (Java版のツールを使用する場合)

(2) ソフトウェア

動作OS ^(※1)	: Red Hat Enterprise Linux 3、4、5、6 (x86、AMD64、EM64T、Itanium) Turbolinux 10 Server (x86) Turbolinux 10 Server x64 Edition (AMD64、EM64T) SUSE Linux Enterprise Server 9、10、11 ^(※2) (x86、AMD64、EM64T) MIRACLE LINUX V4.0 (x86、AMD64、EM64T) MIRACLE LINUX Asianux Server 3 (x86、AMD64、EM64T) <VMware ESX Server> ^{(※3)(※4)} VMware ESX Server 3.0 VMware ESX Server 3.5 VMware ESX Server 4.0 VMware ESX Server 4.1
----------------------	--

(※1) 日本語版インストールの場合、日本語環境(EUCまたはUTF8)がインストールされている必要があります。

(※2) SUSE Linux Enterprise Server 11の場合、ServicePack1およびServicePack2に対応しています。

(※3) VMware ESX Serverホストに**SANUPS SOFTWARE Linux版**をインストールします。

(※4) VMware ESX ServerホストとUPSをシリアルケーブルで接続して使用する構成では使用できません。以下の「注意」をご確認ください。

<注意：VMware ESX Server ホストへインストールする場合>

UPS と VMware ESX Server ホスト（ホスト OS）をシリアルケーブルで接続する構成の場合、ホスト OS 側においてシリアル通信が正常に行えない場合があります。そのため、ホスト OS と UPS 間をシリアルケーブルで接続する構成では使用しないでください。

使用構成としては、「2.3 コンピュータの接続方法の確認」の項にある、「クライアント接続コンピュータ」または、LAN インタフェースカードを使用する構成のいずれかで使用してください。

<VMware ESX Server のシャットダウンについて>

VMware ESX Server ホストには **SANUPS SOFTWARE** の Linux 版をインストールします。（停電時、ホストを自動シャットダウンできます。）

ゲスト OS のシャットダウンは、以下のどちらかで行えます。

- (1) VMware ESX Server の連動シャットダウン機能を使用して、ホストシャットダウン時にゲスト OS をシャットダウンする。
- (2) ゲスト OS にも **SANUPS SOFTWARE** をインストールします。ホストが、ゲスト OS のシャットダウン後、シャットダウンを開始するように、**SANUPS SOFTWARE** を設定します。（シャットダウン待機時間の設定により、シャットダウンの開始を遅延します。）

<UPS からの電力給電開始により、OS 自動起動を行う場合について>

UPS からの電力供給開始により、コンピュータを自動起動するには、以下の条件が必要となります。

WindowsXP の場合：

ServicePack2 以上がインストールされている必要があります。

Windows Server 2003 の場合：

ServicePack1 以上がインストールされている必要があります。

Windows 8 の場合：

Windows 8 Pro / Enterprise がインストールされている必要があります。

上記以外の場合：

ハードウェア側（BIOS）の設定で電源投入時のコンピュータの起動を設定する必要があります。（詳しくは、購入先のコンピュータメーカー等にご確認ください）

インストールを行う前に

2. インストールを行う前に

インストールを行う前に、UPSとの接続について確認します。

2.1 UPSの動作モード確認

UPSの動作モードを確認します。

接続するUPSに「W/S（ワークステーション）モード」がある場合、「W/Sモード」に設定します。

（ただし、LANインタフェースカード、シリアルインタフェースカード等のオプションカードが組み込まれているUPSの場合、「W/Sモード」が設定済みとなっています。）

※ 「W/Sモード」の設定方法については、UPS付属の「取扱説明書」をご確認の上、設定を行ってください。

※ UPS本体の「外部転送信号」（接点信号）を使用する場合は、「W/Sモード」の設定は必要ありません。ただし、「外部転送信号」使用時は、UPSの停止ができない、UPSの状態表示ができない等の制約があります。

2.2 UPSとの通信接続

UPSと直接シリアルケーブルで接続して使用する場合は、**SANUPS SOFTWARE**、またはUPS付属のシリアルケーブルを使用します。

※ 当社指定以外のケーブルを使用した場合については、動作保障していません。

LANインタフェースカード（オプション品）使用時は、まずLANインタフェースカードにIPアドレスを設定していただいた上でご使用ください。

※ LANインタフェースカードへのIPアドレス設定については、LANインタフェースカードの「ユーザガイド」をご確認の上、設定を行ってください。

※ LANケーブルについては、**SANUPS SOFTWARE**、LANインタフェースカード、およびUPSには付属していません。お客様にて必要な長さのLANケーブルをご用意いただく必要があります。

2.3 コンピュータの接続方法の確認

UPSとの接続方法（UPSと直接シリアル接続、またはLANインタフェースカードを使用するなど）につきましては、インストール後のセットアップ操作において設定します。

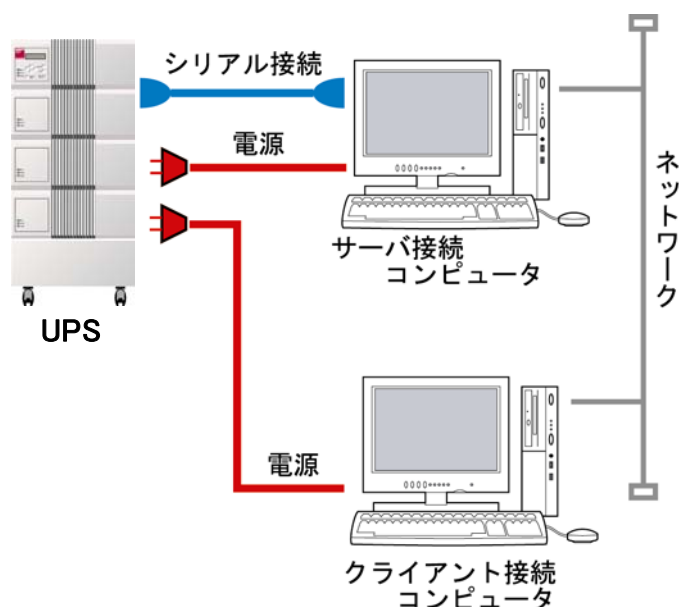
そのため、**SANUPS SOFTWARE**をインストールするコンピュータを、UPSとどのように接続して使用するかを決めておく必要があります。

UPSとコンピュータを接続する方法としては、次の2通りあります。

- ・シリアルケーブル（接点接続を含む）で接続して使用する場合
- ・LANインタフェースカードを使用する場合

以下にそれぞれの接続方法のシステム構成例を説明しています。

シリアルケーブルで接続して使用する場合

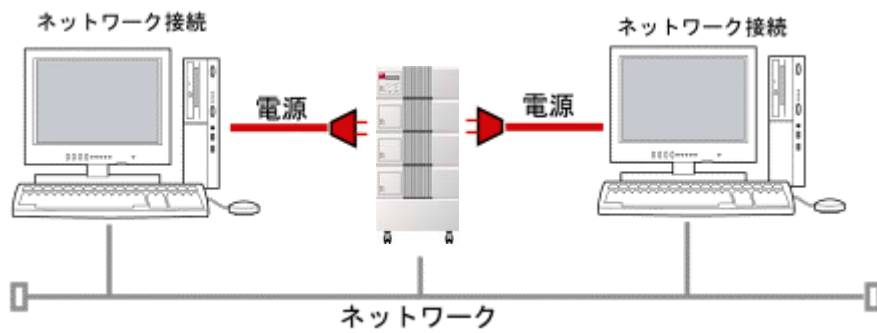


UPSとシリアル接続（接点接続含む）しているコンピュータは、「サーバ版」として動作し、それ以外のコンピュータは、「クライアント版」として動作します。（サーバクライアント間、クライアントークライアント間にはネットワーク接続されている必要があります。）

UPSにコンピュータ1台のみ接続して使用する場合は、ネットワーク環境無しでも利用できます。

インストールを行う前に

LANインタフェースカードを使用する場合



LANインタフェース付きUPS使用時は、接続するコンピュータは、「ネットワーク版」として動作します。（サーバ、クライアントの区別はありません。）

3. インストール

SANUPS SOFTWAREは、各種オペレーティングシステムに対応しています。それぞれインストール方法が異なりますので、お使いのオペレーティングシステムに関する項目を参照してください。

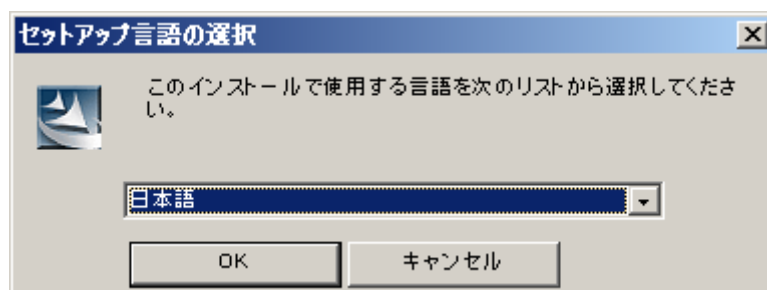
以降の操作は、管理者権限（Administrators、root）を持ったユーザで実施してください。

当社の「UPS管理ソフト」の旧製品が既にインストールされている場合、あらかじめアンインストールを行ってから、本製品のインストールを行ってください。

3.1 Windowsの場合

3.1.1 インストールプログラムの起動

- （１）CD-ROMドライブに**SANUPS SOFTWARE for Windows**のCD-ROMをセットします。
- （２）インストールプログラムが自動起動し、次の画面が表示されます。
ここでは、「日本語」版をインストールする場合について説明します。



ここで選択した言語は、後から変更することはできません。

<インストールプログラムが自動起動しない場合>

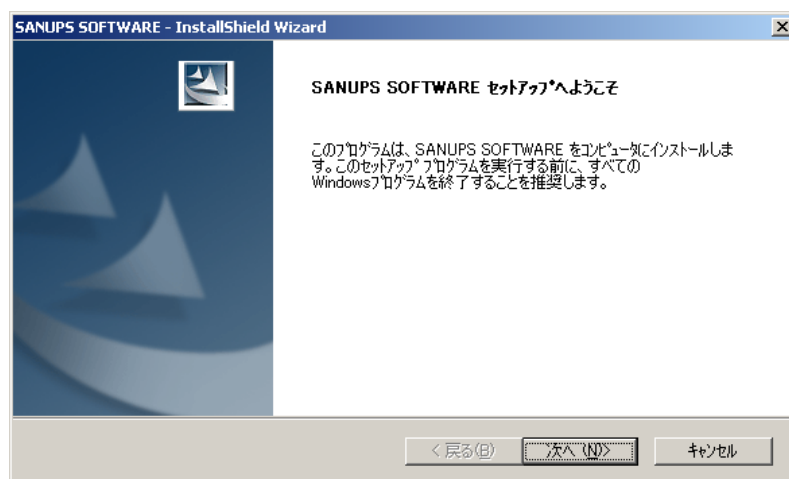
エクスプローラを起動し、CD-ROMドライブに移動します。
CD-ROMドライブ中にある **Setup.exe** をダブルクリックし、インストールプログラムを起動します。**Windows Server 2008**、または**Windows Server 2012**を **Server Core**環境で使用している場合は、コマンドラインからCD-ROMドライブ中にある**Setup.exe**を実行します。

＜Windows8 / Windows Server 2012 でのインストールプログラムの起動＞

- ・ アプリ環境では、インストール CD をセットし、「タップしてこのディスクに対して行う操作を選んでください」の表示を選ぶと、「メディアからプログラムのインストール/実行」画面が表示されます。「setup.exe の実行」を選びインストールプログラムを起動します。
- ・ デスクトップ環境では、エクスプローラを起動し、CD-ROMドライブ中にある **Setup.exe** をダブルクリックし、インストールプログラムを起動します。

(3) 言語を選択後、「OK」ボタンをクリック（選択）します。

(4) インストールの準備中画面を表示後、次の画面が表示されます。

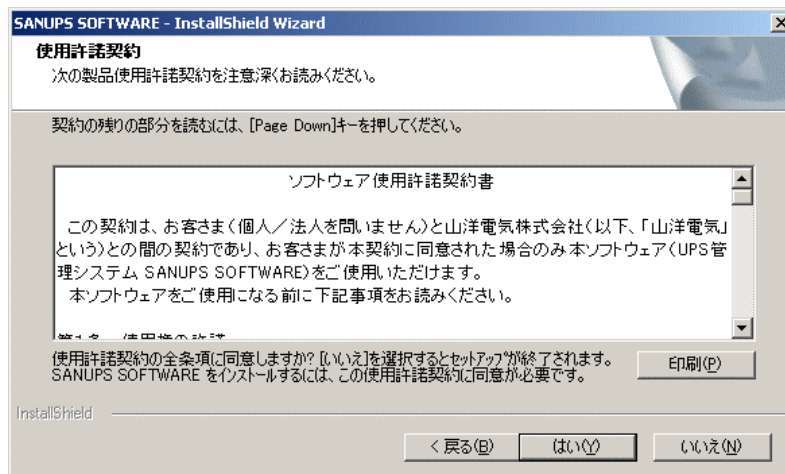


(5) 「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

本画面以降、インストールを中断する場合は、インストール画面中の「キャンセル」ボタンをクリックすることで、インストールを中断終了することができます。

3.1.2 製品のライセンス

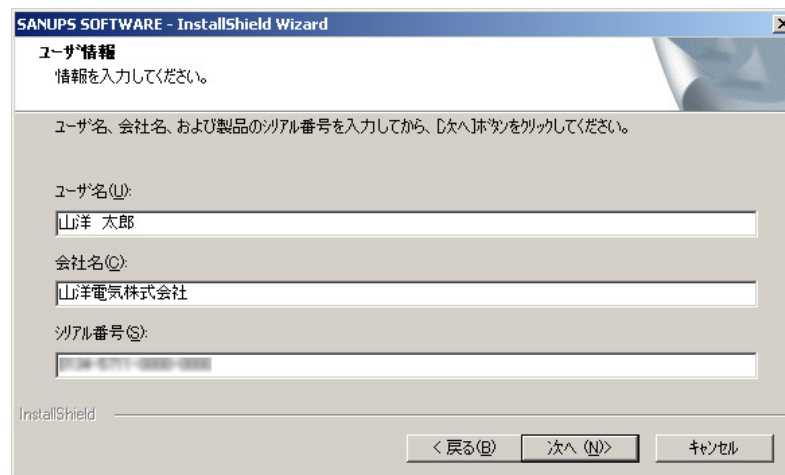
- (1) 使用許諾画面が表示されます。



- (2) 使用許諾契約に同意され、インストールを続ける場合は、「はい(Y)」ボタンをクリック（選択）します。

3.1.3 ユーザ情報の入力

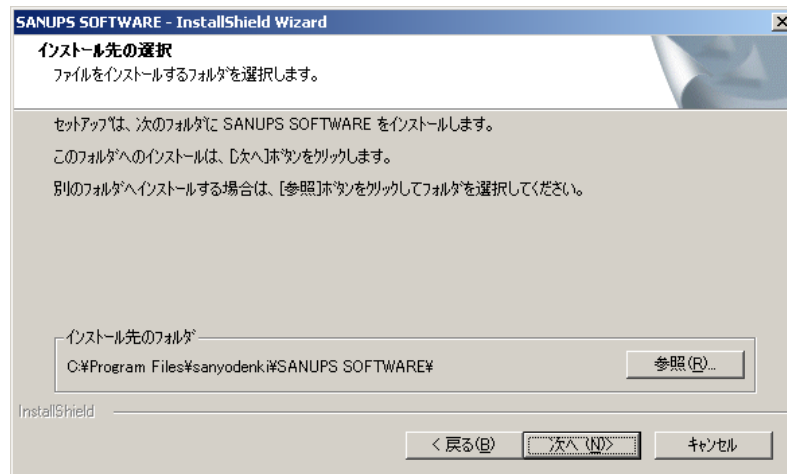
- (1) ユーザ情報の入力画面が表示されます。



- (2) 「ユーザ名(U)」、「会社名(C)」、「シリアル番号(S)」を入力します。
シリアル番号は、SANUPS SOFTWAREのCD-ROMケースに記載されています。
- (3) 「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

3.1.4 インストール先フォルダの確認

- (1) インストール先の選択画面が表示されます。

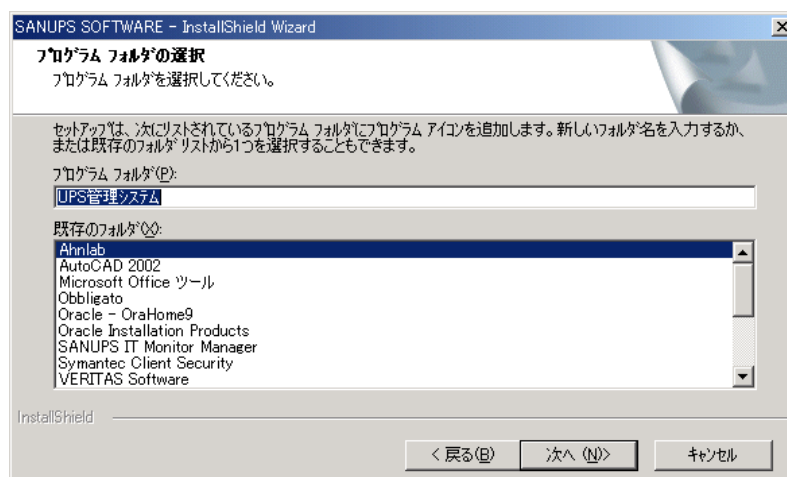


この画面で「インストール先」を変更することができます。

- (2) インストール先を指定後、「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

3.1.5 プログラムフォルダの選択

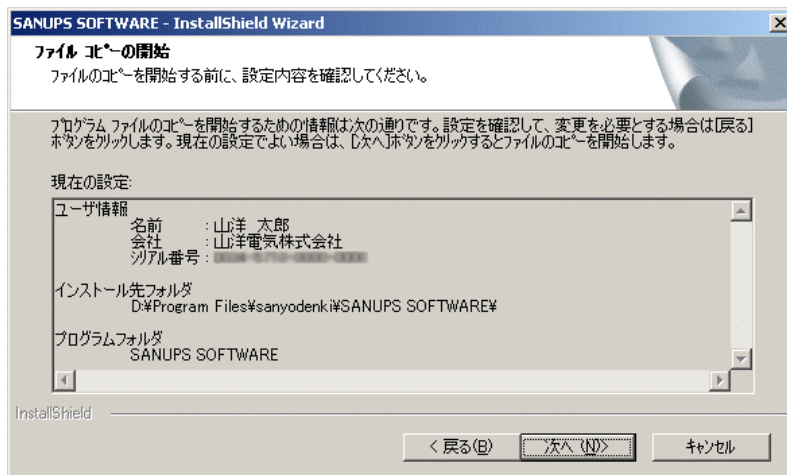
- (1) プログラムフォルダの選択画面が表示されます。



- (2) 「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

3.1.6 ファイル コピーの開始の確認

- (1) ファイル コピーの開始の確認画面が表示されます。



- (2) 設定内容を確認し、「次へ(N)」ボタンをクリック（選択）します。

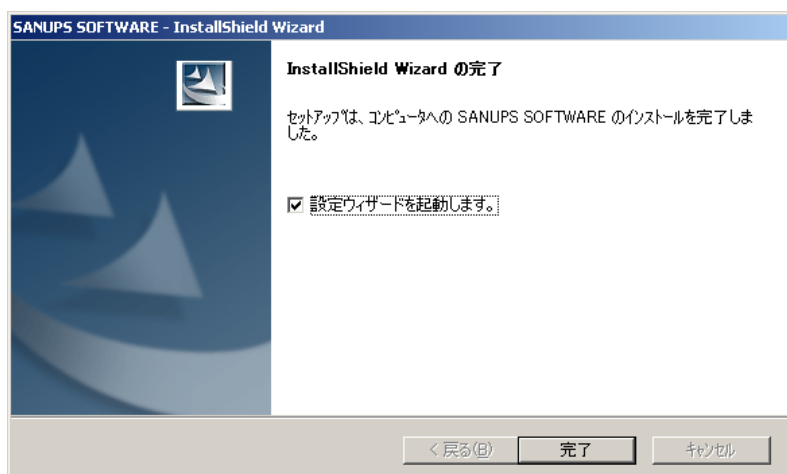
3.1.7 ファイルのコピー（インストールの実行）

- (1) ハードディスク上に**SANUPS SOFTWARE**のファイルがコピーされます。
インストールには、数分かかります。そのままお待ちください。

インストール先に十分な空き容量が無い場合、インストールできない場合があります。
動作環境として十分な空き容量があるか確認してください。

3.1.8 インストールの終了

- (1) セットアップの完了画面が表示されます。



インストール

- (2) 「完了」ボタンをクリック（選択）すると、インストールプログラムは終了します。
「設定ウィザードを起動します」にチェックをつけた状態で、「完了」ボタンをクリック（選択）すると、引き続いて設定ウィザードが起動します。設定ウィザードについては、「4.1 設定ウィザード機能（GUI版設定ツール）」を参照してください。

※ インストール完了後、UPSにコンピュータを登録することで停電時等の自動シャットダウンが行えます。

＜インストール後のツール画面起動について（Windows 8 / Windows Server 2012 の場合）＞
Windows 8 / Windows Server 2012 へ SANUPS SOFTWARE をインストールすると、「スタート」画面、および「アプリ」画面に「SANUPS SOFTWARE」のタイルが作成されます。
このタイルをクリックすると SANUPS SOFTWARE のツール画面が起動します。

3.2 Solarisの場合

3.2.1 インストールプログラムの起動

- (1) CD-ROMドライブに**SANUPS SOFTWARE for UNIX**のCD-ROMをセットします。
- (2) CD-ROMがマウントされているディレクトリを確認します。
CD-ROMが自動マウントされていない場合は、CD-ROMデバイスを、**mount**コマンドを使い適当なディレクトリにマウントします。
(**mount**コマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください。)
- (3) CD-ROMをマウントしているディレクトリに移動します。
ご使用のOSバージョンにあったディレクトリに移動してください。
(CD-ROMのマウント先が **/cdrom**の場合)

・SPARC版の場合

```
# cd /cdrom/sanupssoftware_u/solaris/sparc <Return>
```

・x86版の場合

```
# cd /cdrom/sanupssoftware_u/solaris/x86 <Return>
```

- (4) **pkgadd**コマンドを使い、インストールを行います。
上記(3)にて移動したディレクトリには、2つのディレクトリ^(※1)があります。

SANYupsd (UPS管理システム・パッケージ)

snmp (SNMPエージェント・パッケージ) (※1)

pkgaddコマンドを使い、**SANYupsd**をインストールします。

(**pkgadd**コマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください。)

次項「3.2.2 インストール」にて、**pkgadd**コマンドを使用したインストールの一例を示します。

(※1) x86版には、SNMPエージェント・パッケージは含まれていません。

3.2.2 インストール

以下は、**pkgadd**コマンドを利用したインストールの一例です。
インストール中に入力必要な箇所は **入力値** で示しています。
以下では、SPARC版 Version2.0.0を参考にしています。

```
# pkgadd -d . <Return>
```

次のパッケージを利用できます:

```
1  SANYupsd      SANUPS SOFTWARE  
                        (sparc) 2.0.0
```

パッケージの内容は、以下の通りです。
SANYupsd:UPS 管理ソフト

パッケージ（複数可）を選択してください。
(すべてのパッケージを処理するには 'all' を入力してください)。
(default: all) [?,??,q]: **1**

SANUPS SOFTWARE 本体をインストールする場合は、
「**1**」を選択します。
終了する場合は、「**q**」を選択します。

</cdrom/SANUPS SOFTWARE_u/solaris> 中のパッケージインスタンス <**SANYupsd**>
を処理中です。

SANUPS SOFTWARE
(sparc) 2.0.0
SANYO DENKI Co.,Ltd.
シリアル番号を入力してください : **XXXX-XXXX-XXXX-XXXX**

CD-ROM に記載されているシリアル No を入力します。

`/usr/sg4`

このディレクトリにインストールするときはRETURNキーを押してください。
またはインストール先のディレクトリを入力してください。

`/usr/local/ups`

上記は、`/usr/local/ups` をインストール先にした場合です。
インストール先のディレクトリを入力し、インストール先を指定することができます。インストール先を指定せずに **RETURN** キーを押すと `/usr/sg4` がインストール先のディレクトリになります。
GUI ツールを使用する場合、インストール先ディレクトリには約 1 2 0 メガバイトの空き容量が必要です。

日本語版・英語版どちらをインストールしますか [jp or us] **jp**

日本語版をインストールする場合は、**‘jp’** を入力します。
英語版をインストールする場合は、**‘us’** を入力します。

サービスを起動できるようにシステムファイルを書き換えてもよいですか [y/n] **y**

本製品の使用には、次のカーネルパラメータが設定されている必要があります。

`shmsys:shminfo_shmmax` が 4169764 以上
`msgsys:msginfo_msgmax` が 4096 以上
`msgsys:msginfo_msgmni` が 128 以上
`msgsys:msginfo_msgtql` が 200 以上

この質問に **‘y’** と入力して **RETURN** キーを押すと、インストーラはカーネルパラメータの設定ファイルである `/etc/system` を自動的に修正いたします。

既に、これらの値が適切に設定されている場合、もしくはお客様がご自分で修正をされる場合には、**‘n’** と入力して **RETURN** キーを押してください。この場合は、カーネルパラメータは修正されません。
カーネルパラメータを修正した場合は、OSの再起動が必要です。

GUIツールをインストールしますか [y/n] **y**

GUI ツールをインストールする場合は、**‘y’** を入力します。

自動起動スクリプトをインストールしますか [y/n] **y**

‘y’ を入力します。

選択されたベースディレクトリ </usr/local/ups> は、インストール 前に存在している必要があります。

今このディレクトリを作成しますか [y,n,?,q] y

‘y’を入力します。

</usr/local/ups> をパッケージのベースディレクトリとして使用します。

パッケージ情報を処理中です。

システム情報を処理中です。

6 個のパッケージパス名がすでに正しくインストールされています。

ディスク領域の要件を確認中です。

すでにインストール済みのパッケージとの重複を確認中です。

setuid/setgid を行うプログラムを検査中です。

このパッケージには、パッケージのインストール処理中にスーパーユーザーのアクセス権で実行するスクリプトが含まれています。

<SANYupsd> のインストールを続けますか [y,n,?] y

‘y’を入力します。

SANUPS SOFTWARE を <SANYupsd> としてインストール中です。

1/1 部分をインストールしています。

/usr/local/ups/bin/libSGSvcIf.so

/usr/local/ups/bin/libsgshared.so

:

<以下、必要なファイルがコピーされます>

<インストールの終了について>

インストール処理が完了すると、はじめのインストールパッケージ選択画面が再表示されます。‘q’を入力してインストールパッケージ選択を終了します。

3.2.3 コンピュータの再起動

SANUPS SOFTWAREをインストールした後、正常起動するには、コンピュータの再起動が必要です。コンピュータの再起動後、「4. セットアップ」を参照し、UPSの登録作業を行ってください。

3.3 HP-UXの場合

3.3.1 インストールプログラムの起動

- (1) CD-ROMドライブに**SANUPS SOFTWARE for UNIX**のCD-ROMをセットします。
- (2) 必要に応じて、CD-ROMメディアのマウントポイントになるディレクトリを作成します。

```
# mkdir -m 777 /SD_CDROM <Return>
```

(mkdirコマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください)

- (3) CD-ROMドライブのデバイスファイルを検索します。
通常、CD-ROMのでデバイス名は、**/dev/dsk/cXtXdX** のような形式となります。

```
# ioscan -fnu -C disk <Return>
```

(ioscanコマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください)

- (4) CD-ROMをマウントします。(CD-ROMのマウント先が **/SD_CDROM**、
CD-ROMのデバイス名が **/dev/dsk/c0t0d0** の場合)

```
# mount /dev/dsk/c0t0d0 /SD_CDROM <Return>
```

(mountコマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください)

- (5) CD-ROMをマウントしているディレクトリに移動します。

```
# cd /SD_CDROM/hp <Return>
```

- (6) インストールプログラムを起動します。
上記(5)にて移動したディレクトリには、2つのパッケージがあります。

SANYupsd (UPS管理システム・パッケージ)

SANYsnmp (SNMPエージェント・パッケージ)

インストールプログラムを起動して、**SANYupsd** をインストールします。
必要に応じて**swinstall**コマンドを使い、**SANYsnmp** をインストールします。
(**swinstall**コマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください。)
次項「3.3.2 インストール」にて、**SANYupsd** のインストール方法を示します。

3.3.2 インストール

インストールプログラムを起動して、**SANYupsd** をインストールします。
インストール中に入力必要な箇所は **入力値** で示しています。

./install <Return>

シリアル番号を入力してください : **XXXX-XXXX-XXXX-XXXX**

CD-ROM に記載されているシリアル No を入力します。

/usr

このディレクトリにインストールするときはRETURNキーを押してください
またはインストール先のディレクトリを入力してください

/usr/local

インストール先を指定せずに **RETURN** キーを押すと **/usr** ディレクトリの下に **sg4** というディレクトリを作成してインストールされます。他のディレクトリにインストールする場合は、インストール先のディレクトリを入力してください。

上記は、**/usr/local** をインストール先にした場合です。この場合、**/usr/local/sg4** にインストールされます。

GUI ツールを使用する場合、インストール先ディレクトリには約 150 メガバイトの空き容量が必要です。

jp or us ? **jp**

日本語版をインストールする場合は、**'jp'** を入力します。
英語版をインストールする場合は、**'us'** を入力します。

サービスを起動できるようにシステムファイルを書き換えてもよいですか[y/n] (y) : **y**

本製品の使用には、次のカーネルパラメータが設定されている必要があります。

msgmni が 128 以上

msgtql が 200 以上

max_thread_proc が 128 以上

この質問に **'y'** と入力して **RETURN** キーを押すと、インストーラはカーネルパラメータの設定ファイルである **/stand/system** を自動的に修正いたします。

既に、これらの値が適切に設定されている場合、もしくはお客様がご自分で修正をされる場合には、**'n'** と入力して **RETURN** キーを押してください。この場合は、カーネルパラメータは修正されません。

カーネルパラメータを修正した場合は、OSの再起動が必要です。

GUIツールをインストールしますか [y/n] (y) : y

GUI ツールをインストールする場合は、‘y’を入力します。

自動起動スクリプトをインストールしますか [y/n] (y) : y

‘y’を入力します。

<以下、swinstall コマンドのメッセージが表示されます>

:

インストールが完了しました

サービスを起動できるようにシステムファイルを書き換えた場合に
次のメッセージが表示されます。

/stand/system を更新しました

更新前のファイルは /stand/system.X にあります

OSを再起動してください

3.3.3 コンピュータの再起動

SANUPS SOFTWAREをインストールした後、正常起動するには、コンピュータの再起動が必要です。コンピュータの再起動後、「4. セットアップ」を参照し、UPSの登録作業を行ってください。

3.4 AIXの場合

3.4.1 インストールプログラムの起動

(1) CD-ROMドライブに**SANUPS SOFTWARE for UNIX**のCD-ROMをセットします。

(2) CD-ROMをマウントします。(CD-ROMのマウント先が **/mnt**の場合)

```
# mount -v cdrfs -r /dev/cd0 /mnt <Return>
```

(**mount** コマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください。)

(3) CD-ROMをマウントしているディレクトリに移動します。

```
# cd /mnt/aix <Return>
```

(4) インストールプログラムを起動します。

上記(3)にて移動したディレクトリには、次のパッケージがあります。

SANYupsd (UPS管理システム・パッケージ)

インストールプログラムを起動して、**SANYupsd** をインストールします。

次項「3.4.2 インストール」にて、**SANYupsd** のインストール方法を示します。

3.4.2 インストール

インストールプログラムを起動して、**SANYupsd** をインストールします。

インストール中に入力必要な箇所は **入力値** で示しています。

```
# ./install <Return>
```

シリアル番号を入力してください : **XXXX-XXXX-XXXX-XXXX**

CD-ROM に記載されているシリアル No を入力します。

jp or us ? **jp**

日本語版をインストールする場合は、**‘jp’**を入力します。
英語版をインストールする場合は、**‘us’**を入力します。

/usr

このディレクトリにインストールするときはRETURNキーを押してください
またはインストール先のディレクトリを入力してください

/usr/local

インストール先を指定せずに **RETURN** キーを押すと **/usr** ディレクトリの下に **sg4** というディレクトリを作成してインストールされます。他のディレクトリにインストールする場合は、インストール先のディレクトリを入力してください。
上記は、**/usr/local** をインストール先にした場合です。この場合、**/usr/local/sg4** にインストールされます。
GUI ツールを使用する場合、インストール先ディレクトリには約 1 10メガバイトの空き容量が必要です。

GUIツールをインストールしますか [y/n] (y) : **y**

GUI ツールをインストールする場合は、**‘y’**を入力します。

自動起動スクリプトをインストールしますか [y/n] (y) : **y**

‘y’を入力します。

<以下、tar コマンドのメッセージが表示されます>

:

インストールが完了しました

3.4.3 コンピュータの再起動

SANUPS SOFTWAREをインストールした後、正常起動するには、コンピュータの再起動が必要です。コンピュータの再起動後、「4. セットアップ」を参照し、UPSの登録作業を行ってください。

3.5 Linuxの場合

3.5.1 インストールプログラムの起動

(1) CD-ROMドライブに**SANUPS SOFTWARE for Linux**のCD-ROMをセットします。

(2) CD-ROMをマウントします。

CD-ROMが自動マウントされていない場合は、CD-ROMデバイスを**mount**コマンドを使い適当なディレクトリにマウントします。

例) **mount -r /dev/cdrom /mnt/cdrom**

(**mount**コマンドの詳細については、マニュアル等を参照してください。)

(3) CD-ROMをマウントしているディレクトリに移動します。

(CD-ROMのマウント先が **/mnt/cdrom**の場合)

・ 32ビットOSの場合、または**VMware ESX Server 3.0、3.5**ホストの場合

```
# cd /mnt/cdrom/linux_32 <Return>
```

・ 64ビットOS (x64)の場合、または**VMware ESX Server 4.0、4.1**ホストの場合

```
# cd /mnt/cdrom/linux_x64 <Return>
```

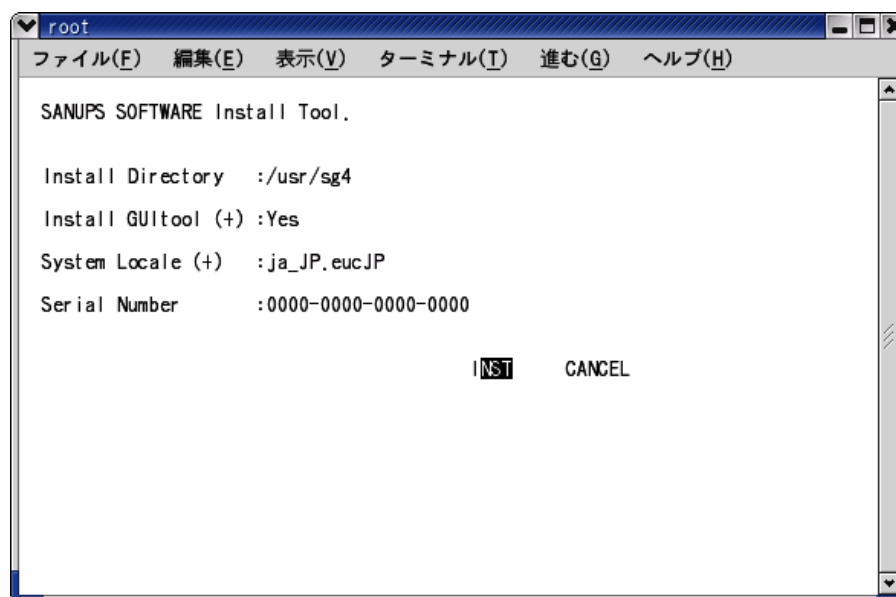
・ 64ビットOS (Itanium) の場合

```
# cd /mnt/cdrom/linux_ia64 <Return>
```

(4) インストールプログラムを起動します。

```
# ./install <Return>
```

下記の画面が表示されます。

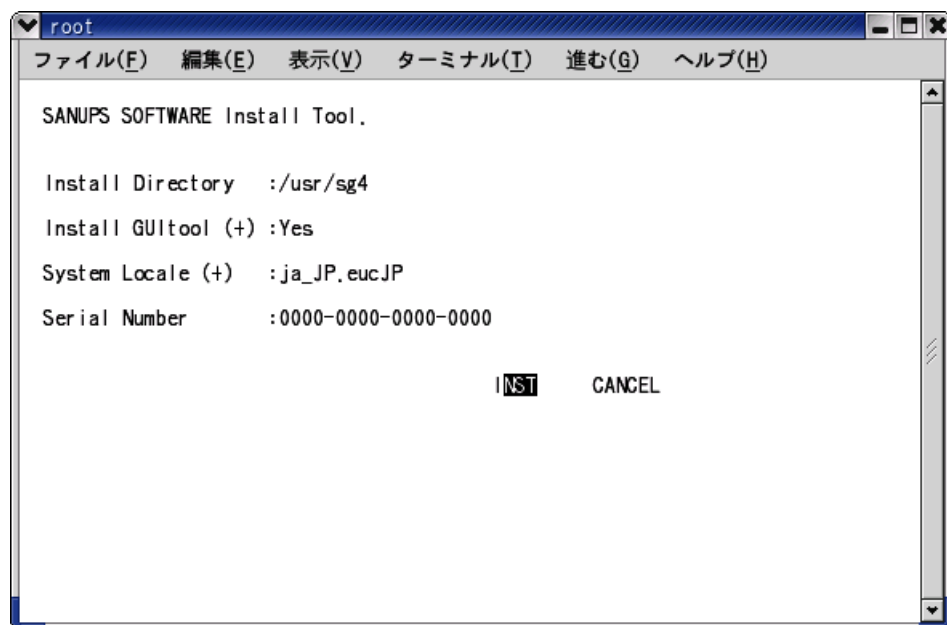


(注) 既に**SANUPS SOFTWARE**がインストールされ、かつ、動作中の場合は、インストールプログラムは動作しません。再インストールを行う場合は、一度、プログラムのアンインストールを行った後、再インストールを実施してください。

3.5.2 インストール

- ・インストール先ディレクトリ (Install Directory)
 - ・インストール形態 (Install GUItool)
 - ・言語環境 (System Locale)
 - ・シリアル番号 (Serial Number)
- を設定し、インストールを行います。

VMware ESX Server のコンソールには、日本語メッセージが表示できないため、インストール時の言語環境 (System Locale) の設定は、**‘en_US(C)’** を選択して、英語版をインストールすることをお勧めします。



- (1) インストール先ディレクトリを設定します。(デフォルト値: **/usr/sg4**)
SANUPS SOFTWAREをインストールするディレクトリを指定します。
設定したディレクトリが無い場合は、新規作成します。
(**SANUPS SOFTWARE**専用ディレクトリにインストールすることをお奨めします。)
- (2) インストール形態を選択します。(デフォルト値: **Yes**)
Java版のツール類をインストールするか否かを選択します。
X-Windowが動作しないなどJava版のツールを動作させない場合は、**「No」**を選択します。(スペース・キーを押すと、**Yes/No**が切り替わります。)

- (3) 言語環境を選択します。(デフォルト値：**EUC-JP**)
 システム環境にあったロケールを選択します。
 システムロケールは、**locale**コマンドにより確認できます。

「**LC_CTYPE=ja_JP.eucJP**」 と表示される場合は 「**EUC-JP**」、
 「**LC_CTYPE=ja_JP.UTF8**」 と表示される場合は 「**UTF-8**」
 「**LC_CTYPE=en_US(C)**」 と表示される場合は 「**en_US**」

を選択します。
 (スペース・キーを押すと、ロケールが切り替わります)

‘**ja_JP.eucJP**’ または ‘**ja_JP.UTF8**’ を選択した場合、日本語版がインストールされます。
 ‘**en_US(C)**’ を選択した場合、英語版がインストールされます。

- (4) シリアル番号を入力します。
 CD-ROMケースに記載されているシリアル番号を入力します。
- (5) インストールを実行します。
 上記3項目を設定したら、矢印キーを使い、「**INST**」にカーソルを移動します。
 インストールを実行しても良い場合は、スペース・キーを押してください。
 ファイルをディスク上にコピーします。そのままお待ちください。
- (6) インストールの完了。
 「**Install Completed.**」が表示されたら、インストール完了です。

3.5.3 コンピュータの再起動

SANUPS SOFTWAREをインストールした後、正常起動するには、コンピュータの再起動が必要です。コンピュータの再起動後、「4. セットアップ」を参照し、UPSの登録作業を行ってください。

4. セットアップ

SANUPS SOFTWAREをインストールした後、以下の「4.1 設定ウィザード機能（GUI版設定ツール）」を使い、接続するUPSを登録します。（ウインドウ環境を使用しない場合、または**VMware ESX Server**ホストの場合は、「4.2 設定ウィザード機能（CUI版設定ツール）」を参照して、接続するUPSを登録してください）

この登録作業完了後に、**SANUPS SOFTWARE**は、通常動作を始めます。

4.1 設定ウィザード機能（GUI版設定ツール）

SANUPS SOFTWAREをインストールしたコンピュータにおいて、接続UPSが未登録の状態（インストール直後、または接続装置の削除による）で**SANUPS SOFTWARE**を起動すると、設定ウィザードが自動起動されますので、接続UPSの登録作業を行ってください。接続ウィザードで登録する内容は、登録作業後にも変更することができます。

UPS登録には、次の3通りのいずれかとしてコンピュータを登録します。

登録種別	参照項目	備考
UPSとのサーバ接続	4.1.1	※1
UPSとのクライアント接続	4.1.2	※2
UPSとのネットワーク接続	4.1.3	※3

※1 UPSと直接シリアル接続、または接点接続されているコンピュータの場合

※2 上記（※1）のコンピュータとネットワークで接続されているコンピュータの場合

※3 LANインタフェース付きUPSとネットワークで接続されているコンピュータの場合

該当する登録方法の項へ進み、セットアップを行ってください。

本項で使用している画面イメージは、Windows 版のものを使用しています。
フォントによる表示の違い以外は、メッセージ内容、動作共に全く同一です。

4.1.1 UPSとサーバ接続した場合のセットアップ

UPSと**SANUPS SOFTWARE**をインストールしたコンピュータがシリアルケーブルで接続されている場合、以下の手順でセットアップを行います。

注意：ウィザード設定を行う前には、UPSとコンピュータ間はシリアルケーブルで接続されている必要があります。

(A) SANUPS SOFTWARE（接続ウィザード）の起動

・ Windowsの場合

タスクバーの[スタート]ボタン－[すべてのプログラム]－[UPS管理システム]－[SANUPS SOFTWARE]を選択します。

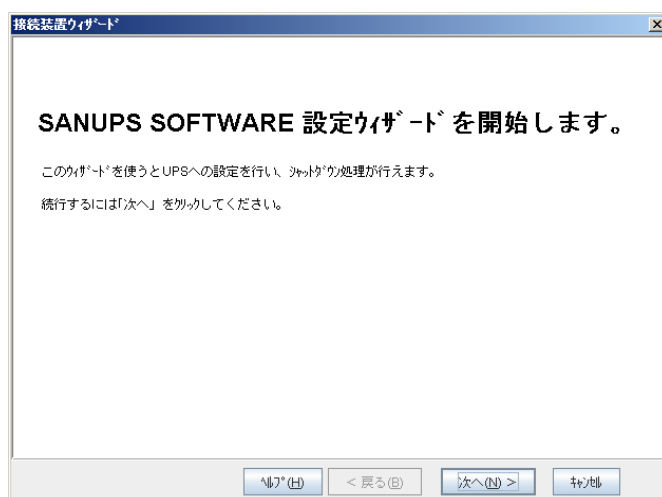
（Windows2000 の場合、[スタート]ボタン－[プログラム]－[UPS 管理システム]－[SANUPS SOFTWARE]）

<情報>

Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を Server Core で使用している場合、SANUPS SOFTWARE インストール先フォルダに移動し、コマンドラインから“**sg4 0**”を実行します。

・ Windows以外のOSの場合

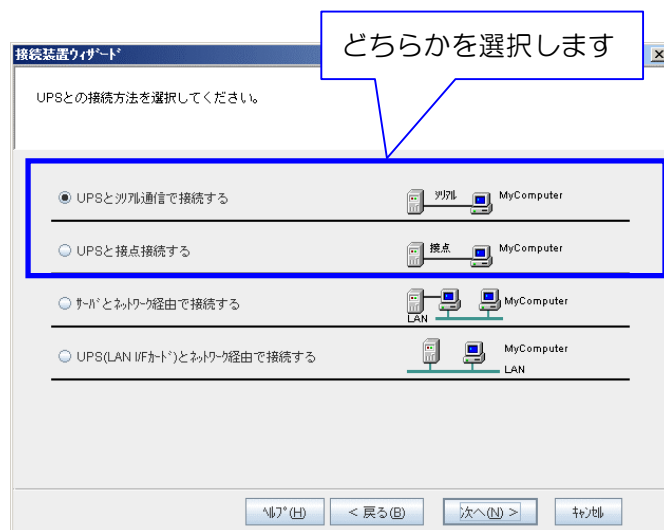
SANUPS SOFTWAREインストール先ディレクトリに移動し、“**./sg4 0**”を実行します。



SANUPS SOFTWARE 起動後、左図の画面が表示されます。「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS 接続方法の選択）へ移ります。

セットアップ

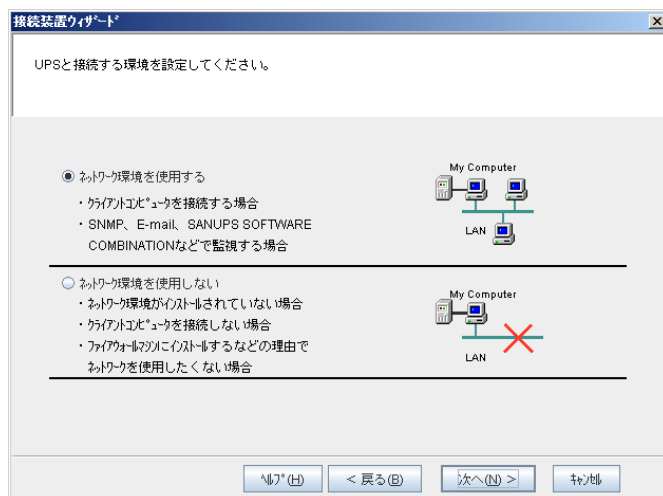
(B) UPS接続方法の選択



UPSとの接続方法を選択します。
UPSとのサーバ接続の場合、
シリアル通信または接点接続を
選択します。
「次へ(N)」ボタンをクリックし、
次画面（UPS 使用環境の選択）
へ移ります。

接続方法	説 明
シリアル通信で接続する	シリアルインタフェース付きUPS、またはシリアルインタフェースカードをUPSにセットして使用する場合に設定します。
接点接続する	UPS本体の「外部転送信号」コネクタ（接点接続用）を使用し、コンピュータと接続する場合に設定します。

(C) UPS使用環境の選択



本コンピュータで使用する環境を選択します。

(下記の表を参照してください)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面(シリアルケーブルの接続設定)へ移ります。

SANUPS SOFTWARE 使用環境	使用マシンの環境
ネットワーク環境を使用する	・クライアントコンピュータを接続する場合 ・ SNMP、E-mail、SANUPS SOFTWARE COMBINATIONなどで監視する場合
ネットワーク環境を使用しない	・ネットワーク環境がインストールされていない場合 ・クライアントコンピュータを接続しない場合 ・ファイアウォールマシンにインストールするなどの理由で、ネットワークを使用したくない場合

セットアップ

(D) シリアルケーブルの接続設定

(a) シリアル接続の場合



使用するコンピュータのシリアルポート番号を選択します。
「**自動検出**」ボタンを使用すると、UPSとシリアル接続されているシリアルポート番号を検出できます。
「**次へ(N)**」ボタンをクリックし、次画面（UPS アカウント情報入力）へ移ります。

(b) 接点接続の場合



接続するUPS種別を「**機種名選択**」リストから選択してください。
（選択UPSに合った信号設定が自動設定されます）
「**次へ(N)**」ボタンをクリックし、次画面（UPS アカウント情報入力）へ移ります。

- ※「**機種名選択**」リストに無いUPSをお使いの場合は、「その他」を選択し、そのUPSの外部転送信号の極性情報を設定してください。
- ※接点接続して使用する場合、専用の接続ケーブルが必要になる場合があります。

<COMポート選択について>

お使いのコンピュータのシリアルポート表記がA、B、…となっている場合は、Aポートを1、Bポートを2と読み替えて接続するシリアルポートを選択してください。

(E) UPSアカウントの入力



UPS管理者アカウントを入力します。
デフォルト設定値の、
管理者 : **upsadmin**
パスワード : **UpsAdmin** (注1)
を入力してください。
「OK」ボタンをクリックします。
ユーザ認証確認後、次画面へ移ります。

(注1) パスワードは、大文字／小文字の
区別を行います。

(F) コンピュータ情報の入力-1



本画面は「(C) UPS の使用環境の選択」
画面にて「ネットワークを使用する」を
選択した場合に表示します。
本コンピュータのアドレス情報を
ネットワーク名またはIPアドレス
で入力します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、
次画面（コンピュータ情報の入力-2）
へ移ります。

セットアップ

(G) コンピュータ情報の入力-2

接続装置ウィザード

コンピュータ情報を入力してください。

☒ UPSの状態・計測値の履歴を記録する

UPS監視間隔: 600 秒 記録期間: 30 日 ファイルサイズ: 1385 KB

保存先: C:\Program Files\sanyodenki\SANUPS SOFTWARE\PCLOG

イベント情報を追加コンピュータに記録する

記録期間: 30 日 シャットダウンタイプ: シャットダウン

設置場所:

コメント:

戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

UPSの履歴情報の保存条件、シャットダウンタイプならびに設置場所などの付属情報を設定します。

コンピュータの「**設置場所**」、「**コメント**」は空白のまま、次に進んでも問題ありません。

「**次へ(N)**」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

<情報>

- UPSに複数台のコンピュータを接続して管理する場合、「**設置場所**」、「**コメント**」を入力してあると、管理が容易になります。
- セットアップ完了後、設定画面から設定内容を変更することができます。
設定方法は、ユーザガイド「6. 機能説明」を参照してください。

※シャットダウンタイプの種類と使い方

シャットダウンタイプ	説 明
シャットダウン	コンピュータをシャットダウンします。
シャットダウンと電源OFF	コンピュータをシャットダウン後、コンピュータの電源をOFFします。ここでいう電源OFFとはUPSの出力OFFではなく、コンピュータ自身の電源OFFです。 (APCI[Advanced Power Configuration Interface]対応のWindowsのみ設定できます。)
休止	コンピュータを休止します。 (休止が有効となっているWindowsのみ設定できます。) <u>スケジュール運転を行う場合は、この設定はしないでください。</u> この設定を使用してスケジュール運転を行うと、休止・再開に伴うポップアップ・メッセージが蓄積します。

Windows を使用し、復電後にコンピュータの自動起動を行う場合は、「付録A **Windows** 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を参照してください。

(H) UPS出力コンセント接続設定

本画面は、接続するUPSが複数系統出力機能を持っている、かつ、シリアルケーブルの接続設定が「**UPSとシリアル通信で接続する**」の場合に表示されます。

複数系統出力機能を持っていないUPS、またはシリアルケーブルの接続設定が「**UPSと接点接続する**」の場合、本画面は表示されません。その場合、コンセント番号は自動的に「1」固定となります。



コンピュータを接続しているUPSの出力コンセント番号を選択します。

（UPSの「OUTPUT1」に接続している場合は、コンセント番号「1」を選択します。）

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

「常時出力」には、シャットダウン不要な周辺機器等は接続できますが、コンピュータは「常時出力」には接続しないようにしてください。

(I) UPS制御情報設定-1 (シャットダウン開始条件)

接続装置のシャットダウン制御時間情報を設定してください。

停電停止タイマー
UPS入力
UPS出力
正常
異常
ON
OFF
← 停電確認時間 → シャットダウン遅延時間 → UPS自動停止時間 →

1 停電確認時間経過後、シャットダウンする
☒ 1 ☐ 2 ☐ 常時出力
 2 バッテリ電圧低下発生時にシャットダウンする

☐ 推定保持時間が指定値より短くなったらバッテリ電圧低下とする ... 指定値: 0 分
☐ UPSとの通信が異常となった場合、シャットダウンする ... 確認時間: 300 秒
☐ UPSで重故障が発生した場合、シャットダウンする ... 確認時間: 60 秒
☐ UPSで過負荷が発生した場合、シャットダウンする ... 確認時間: 60 秒

確認時間: 60 秒

実行(E) < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

UPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS制御情報設定-2）へ移ります。

停電状態が「確認時間」の間継続した場合に、コンセント番号「1」、「2」、「常時出力」（コンセント番号「0」）の各コンセントに登録されているコンピュータが、シャットダウンシーケンスを行うかどうかを設定します。
 （複数系統出力機能を持っていないUPSの場合、コンセント番号「1」のみ設定可能となります。）

・コンセント番号にチェックを入れた場合

チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスを行います。

・コンセント番号のチェックをはずした場合

チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。（バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンを行います）

なお、「停電確認時間経過後、シャットダウンする」のチェックをはずした場合、全てのコンピュータは、バッテリー電圧低下発生まで停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。

（但し、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」のチェックを外した場合は、バッテリー電圧低下発生となってもシャットダウンは行われません。）

注意：

「停電確認時間経過後、シャットダウンする」、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」の両方のチェックを外した場合、停電時コンピュータのシャットダウンは行われません。

長時間の停電の場合は、自動シャットダウン行わずに、バッテリー放電終止によりUPS停止となる場合があります。

この2つの設定項目のチェックを外す場合は、動作を理解した上で行ってください。

(J) UPS制御情報設定-2

接続装置ウィザード

制御時間情報を設定してください。



シャットダウン遅延時間: 30 秒 UPS自動停止時間: 120 秒

UPS制御動作

☒ 停電時、UPSを自動停止する

☒ 復電時、UPSを自動起動する

バッテリー充電率が指定値以上になったら起動する ...指定値: 0 %

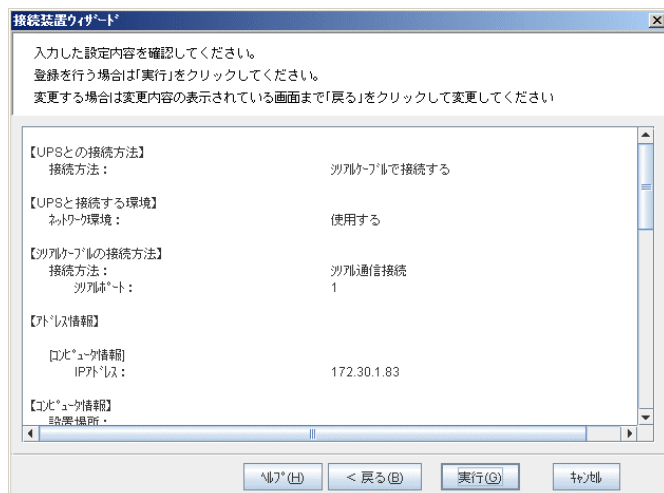
上一步 (H) < 戻る (B) 次へ (N) > キャンセル

前画面に引き続いてUPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（設定情報確認）へ移ります。

セットアップ

(K) 設定情報確認

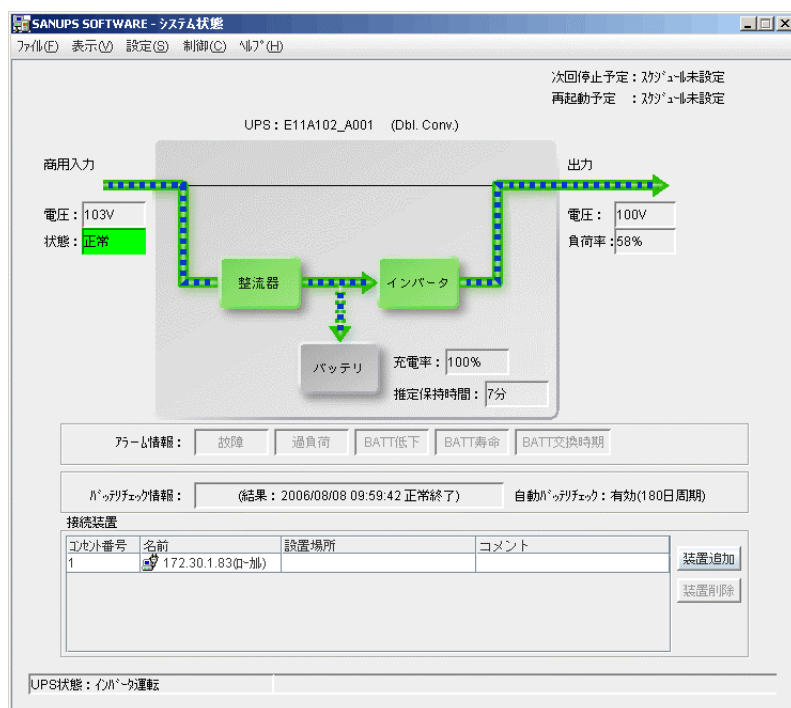


ウィザード機能で設定した内容を確認する画面です。

設定内容がよろしければ「**実行(G)**」ボタンをクリックしてください。

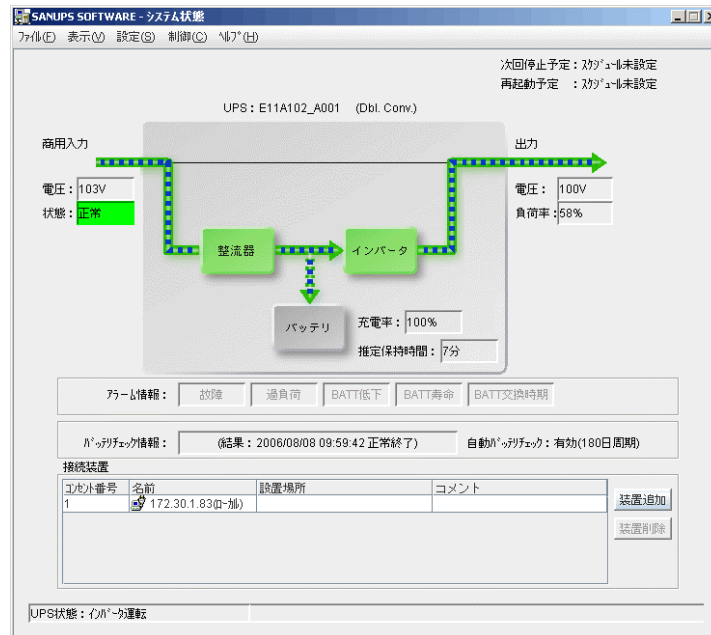
設定内容を変更したい場合は、「**戻る(B)**」ボタンをクリックし、該当する画面まで戻ってください。

↓ 「**実行(G)**」ボタンをクリック（設定完了）



SANUPS SOFTWAREメイン画面が表示されます。

(L) 自コンピュータの接続を確認



「接続装置」に、自コンピュータが登録表示されます。

(ローカル) と付いているコンピュータが自コンピュータになります。

(M) 接続確認

- ①UPSの入力をOFFするなどの擬似停電を発生させます。
- ②停電発生メッセージが画面表示されることを確認します。
- ③メッセージ表示後、直ちに擬似停電を復旧します。

擬似停電発生後、停電発生メッセージが表示されない場合、以下の確認を行ってください。

- ・UPSとのシリアルケーブルが正しく接続されているか
- ・SANUPS SOFTWARE サービスプログラムが動作しているか
(サービスの動作は、「ユーザガイド」の「付録A. サービスの操作」を参照してください)

4.1.2 UPSとクライアント接続した場合のセットアップ

シリアルインタフェースを持ったUPSに複数台のコンピュータを接続する場合、**SANUPS SOFTWARE**を**サーバ版**としてセットアップしたコンピュータ以外は**クライアント版**として、以下の手順でセットアップを行います。

(A) SANUPS SOFTWARE（接続ウィザード）の起動

・ Windowsの場合

タスクバーの[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[UPS管理システム]→[SANUPS SOFTWARE]を選択します。

（Windows2000 の場合、[スタート]ボタン→[プログラム]→[UPS 管理システム]→[SANUPS SOFTWARE]）

<情報>

Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を Server Core で使用している場合、SANUPS SOFTWARE インストール先フォルダに移動し、コマンドラインから“**sg4 0**”を実行します。

・ Windows以外のOSの場合

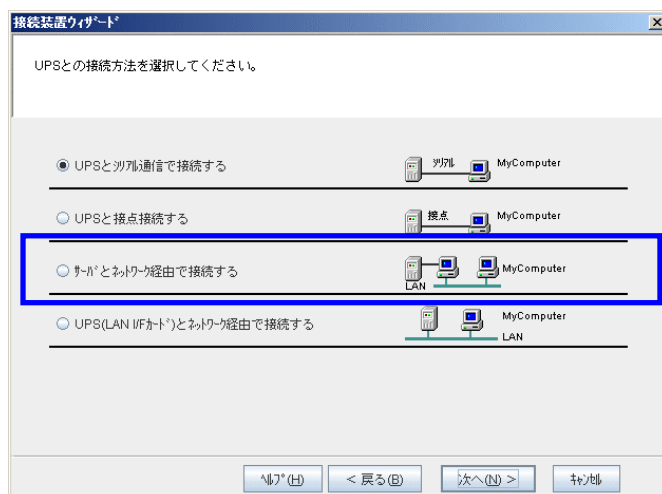
SANUPS SOFTWAREインストール先ディレクトリに移動し、“**./sg4 0**”を実行します。



SANUPS SOFTWARE を起動すると、左図の画面が表示されます。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS 接続方法の選択）へ移ります。

(B) UPS接続方法の選択



「サーバとネットワーク経由で接続する」を選択します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（ネットワーク設定）へ移ります。

(C) ネットワークの設定



ネットワーク接続する情報を設定します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

サーバ接続しているコンピュータのネットワーク情報を設定します。

自コンピュータのネットワークを設定します。
ネットワークカードを複数枚使用している場合は、接続に使用するネットワークを選択します。

設定項目	内容
UPS情報	サーバ接続するコンピュータのネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定（※1）
コンピュータ情報	自コンピュータのネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名またはIPアドレスを設定（※1）

（※1）コンピュータが、DHCPなどを使い、ネットワーク名による管理をしている場合は、「ネットワーク名」を使用してください。

セットアップ

(D) UPSアカウントの入力

UPS管理者アカウントを入力します。
デフォルト設定値の、
管理者 : **upsadmin**
パスワード : **UpsAdmin** (注1)
を入力してください。
「OK」ボタンをクリックします。
ユーザ認証確認後、次画面へ移ります。

(注1) パスワードは、大文字／小文字
の区別を行います。

(E) Wake On LAN の設定

お使いのコンピュータが **Wake On LAN** 機能に対応している場合、UPSからの電源供給後、コンピュータの電源自動投入が可能になります。

Wake On LAN 機能の設定を行います。
(コンピュータ環境がわからない場合は、「設定をしない」としてください。
この設定の有無は、UPS管理システムの動作には影響しません。)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、
次画面 (コンピュータ情報入力)
へ移ります。

<情報>

セットアップ完了後、本画面の設定内容を変更することができます。
設定方法は、ユーザガイド「6. 機能説明」を参照してください。

(F) コンピュータ情報の入力

UPSの履歴情報の保存条件、シャットダウンタイプならびに設置場所などの付属情報を設定します。また、サーバとの通信接続が切れた場合の動作設定も行えます。コンピュータの「**設置場所**」、「**コメント**」は空白のまま、次に進んでも問題ありません。

[次へ] ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

<情報>

UPS に複数台のコンピュータを接続して管理する場合、「**設置場所**」、「**コメント**」を入力してあると、管理が容易になります。

※シャットダウンタイプの種類と使い方

シャットダウンタイプ	説 明
シャットダウン	コンピュータをシャットダウンします。
シャットダウンと電源OFF	コンピュータをシャットダウン後、コンピュータの電源をOFFします。ここでいう電源OFFとはUPSの出力OFFではなく、コンピュータ自身の電源OFFです。 (APCI[Advanced Power Configuration Interface] 対応の Windows のみ設定できます。)
休止	コンピュータを休止します。 (休止が有効となっている Windows のみ設定できます。) <u>スケジュール運転を行う場合は、この設定はしないでください。</u> この設定を使用してスケジュール運転を行うと、休止・再開に伴うポップアップ・メッセージが蓄積します。

Windows を使用し、復電後にコンピュータの自動起動を行う場合は、「付録A **Windows** 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を参照してください。

(G) UPS出力コンセント接続設定

本画面は、接続するUPSが複数系統出力機能を持っている、かつ、**SANUPS SOFTWARE**のサーバ版の、シリアルケーブルの接続設定が「**UPSとシリアル通信で接続する**」の場合に表示されます。

複数系統出力機能を持っていないUPS、または **SANUPS SOFTWARE**のサーバ版の、シリアルケーブルの接続設定が「**UPSと接点接続する**」の場合、本画面は表示されません。その場合、コンセント番号は自動的に「1」固定となります。



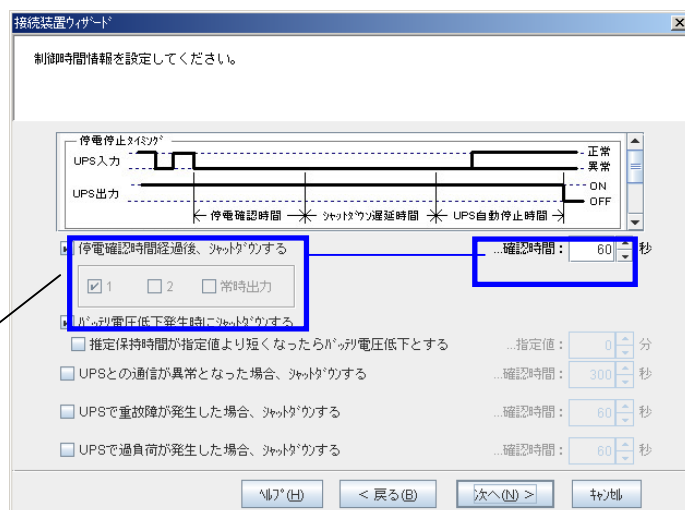
コンピュータを接続しているUPS の出力コンセント番号を選択します。

(UPS の「OUTPUT1」に接続している場合は、コンセント番号「1」を選択します。)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

「常時出力」には、シャットダウン不要な周辺機器等は接続できますが、コンピュータは「常時出力」には接続しないようにしてください。

(H) UPS制御情報設定-1 (シャットダウン開始条件)



UPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS制御情報設定-2）へ移ります。

停電状態が「確認時間」の間継続した場合に、コンセント番号「1」、「2」、「常時出力」（コンセント番号「0」）の各コンセントに登録されているコンピュータが、シャットダウンシーケンスを行うかどうかを設定します。

（複数系統出力機能を持っていないUPSの場合、コンセント番号「1」のみ設定可能となります。）

- ・ **コンセント番号にチェックを入れた場合**
チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスを行います。
- ・ **コンセント番号のチェックをはずした場合**
チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。（バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンを行います）

なお、「停電確認時間経過後、シャットダウンする」のチェックをはずした場合、全てのコンピュータは、バッテリー電圧低下発生まで停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。

（但し、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」のチェックを外した場合は、バッテリー電圧低下発生となってもシャットダウンは行われません。）

注意：

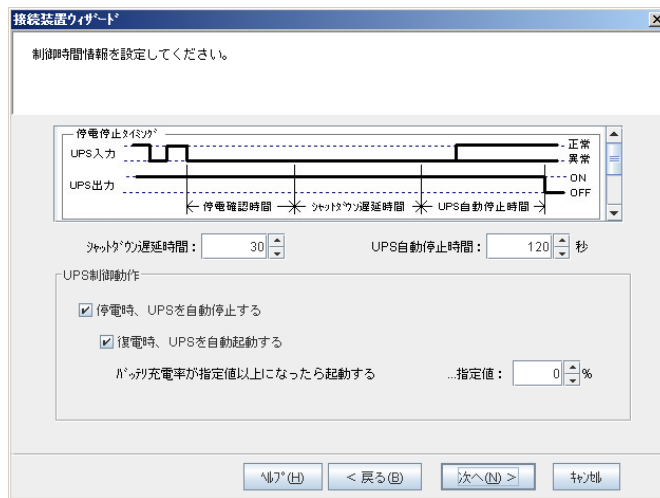
「停電確認時間経過後、シャットダウンする」、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」の両方のチェックを外した場合、停電時コンピュータのシャットダウンは行われません。

長時間の停電の場合は、自動シャットダウン行わずに、バッテリー放電終止によりUPS停止となる場合があります。

この2つの設定項目のチェックを外す場合は、動作を理解した上で行ってください。

セットアップ

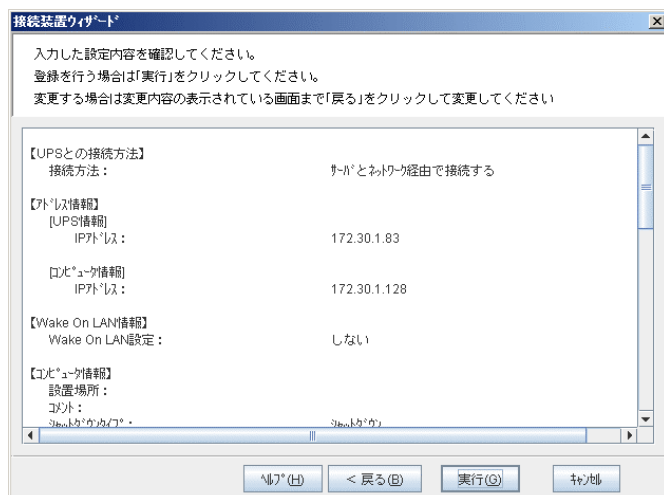
(I) UPS制御情報設定-2



前画面に引き続いてUPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「**次へ(N)**」ボタンをクリックし、次画面（設定情報確認）へ移ります。

(J) 設定情報確認

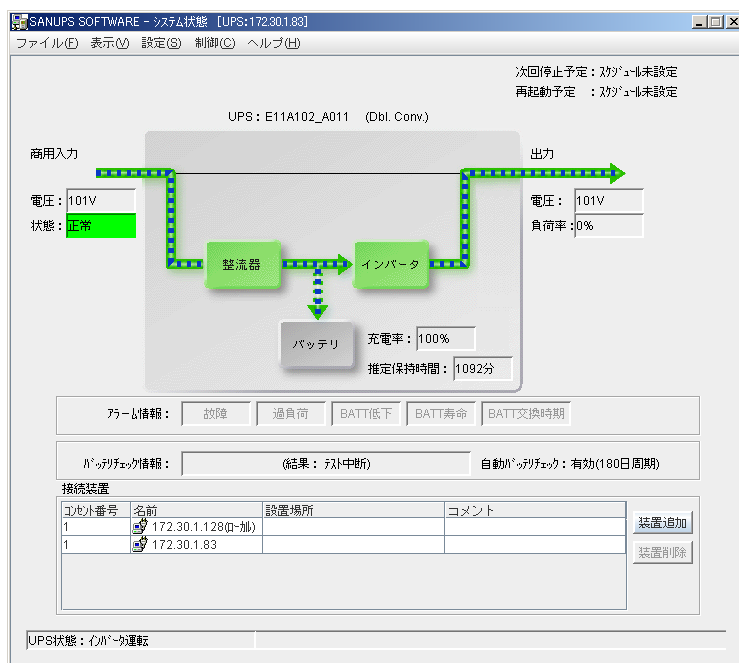


ウィザード機能で設定した内容を確認する画面です。

設定内容がよろしければ「**実行(E)**」ボタンをクリックしてください。

設定内容を変更したい場合は、「**戻る(B)**」ボタンをクリックし、該当する画面まで戻ってください。

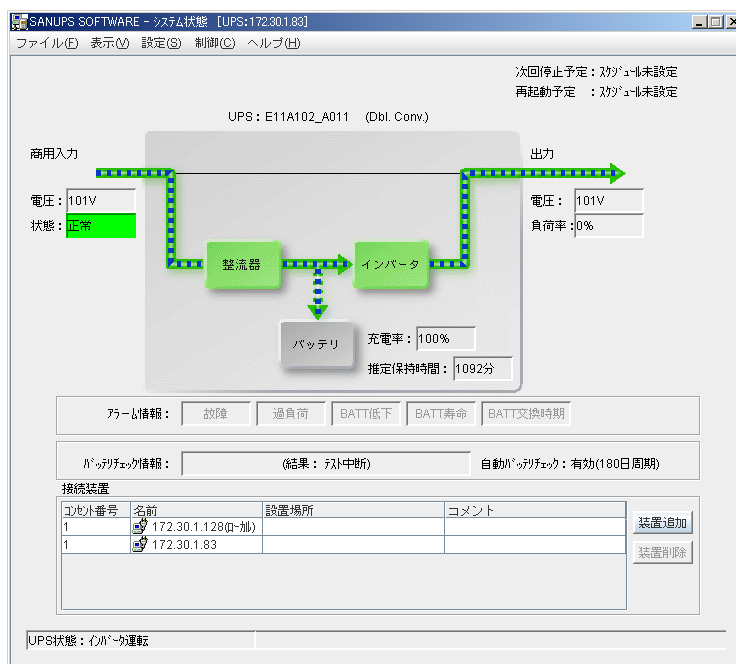
↓ 「**実行(E)**」ボタンをクリック（設定完了）



SANUPS SOFTWAREメイン画面が表示されます。

セットアップ

(K) 自コンピュータの接続を確認



「接続装置」に、自コンピュータが登録表示されます。

(ローカル)と付いているコンピュータが自コンピュータになります。

(L) 接続確認

- ①UPSの入力をOFFするなどの擬似停電を発生させます。
- ②停電発生メッセージが画面表示されることを確認します。
- ③メッセージ表示後、直ちに擬似停電を復旧します。

擬似停電発生後、停電発生メッセージが表示されない場合、以下の確認を行ってください。

- ・UPSとのシリアルケーブルが正しく接続されているか
- ・**SANUPS SOFTWARE** サービスプログラムが動作しているか
(サービスの動作は、「ユーザガイド」の「付録A. サービスの操作」を参照してください)
- ・ファイアウォールが有効になっていないか
(「付録」に **Windows**、および主な **Linux** バージョンのファイアウォール設定について記載がありますので参照してください。)

情報：

シャットダウンテスト機能を使用し、このコンピュータ単体でシャットダウン確認を行うことができます。

4.1.3 UPSとネットワーク接続した場合のセッティング

Windows OS を ECN 機能^(※)「有効」でお使いになる場合の注意点について

(※) ECN (Explicit Congestion Notification) 機能 (輻輳情報通知機能) は、ルータ間で輻輳が発生した場合、データの伝送速度を遅くして、パケットの損失を防ぐための機能です。
Windows Vista 以降からサポートされていますが (デフォルト値は「無効」になっています)、
Windows Server 2012 からデフォルト値「有効」に設定されています。

LAN インタフェースカードと ECN 機能「有効」の **Windows OS (Windows Server 2012)** をネットワーク接続して使用される場合は、以下の内容を確認していただき、ご使用ください。

LAN インタフェースカードは、ECN 機能に対応していないため、
Windows Server 2012 など ECN 機能が「有効」な **Windows OS** が LAN インタフェースカードとネットワーク接続して、装置登録/設定変更などを行うとネットワーク通信が非常に遅くなり、GUI ツール画面の表示が遅くなります。
そのため、**Windows Server 2012** など ECN 機能が「有効」な **Windows OS** において GUI ツールを使用する場合は、一時的に ECN 機能を「無効」にして GUI ツールを使用していただくか、または別コンピュータ上の **SANUPS SOFTWARE** (あるいは **SANUPS SOFTWARE COMBINATION**) から装置登録/設定変更を実施してください。

ECN 機能「有効」で使用いただいても、電源障害時のシャットダウン動作については、問題なく動作いたします。

次の手順で ECN 機能の設定状態の確認、設定値変更を行えます。

設定状態の確認方法

- ① 管理者権限でログインし、コマンドプロンプトから下記のコマンドを実行します。
`netsh interface tcp show global`
- ② ECN 機能の設定値を確認します。
ECN 機能が、有効 (enabled) / 無効 (disabled) が表示されます。

ECN 機能を「無効」に変更する方法^(※1)

管理者権限でログインした状態で以下のいずれかで変更を行います。
方法 1) **SANUPS SOFTWARE** インストールフォルダ内の「**ECN_DISABLE.BAT**」を実行します。
方法 2) コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。
`netsh interface tcp set global ecncapability=disabled`

ECN 機能を「有効」に変更する方法^(※1)

管理者権限でログインした状態で以下のいずれかで変更を行います。
方法 1) **SANUPS SOFTWARE** インストールフォルダ内の「**ECN_ENABLE.BAT**」を実行します。
方法 2) コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。
`netsh interface tcp set global ecncapability=enabled`

※ 1 : ECN 機能の設定値変更による OS 再起動は必要ありません。

Windows Server 2012 などの ECN 機能が「有効」な **Windows OS** を LAN インタフェースカードと使用しない場合 (サーバ/クライアント構成など) は、ECN 機能「有効」の設定値のまま使用できます。

セットアップ

LANインタフェース・カードを組み込んだUPSにコンピュータを接続する場合、以下の手順でセットアップを行います。

注意：使用するUPS（LANインタフェース・カード）には、使用する環境に合わせたIPアドレスが設定されている必要があります。（設定の詳細は、LANインタフェース・カード「ユーザガイド」を参照してください）

(A) SANUPS SOFTWARE（接続ウィザード）の起動

・ Windowsの場合

タスクバーの[スタート]ボタン－[すべてのプログラム]－[UPS管理システム]－[SANUPS SOFTWARE]を選択します。

（Windows2000 の場合、[スタート]ボタン－[プログラム]－[UPS 管理システム]－[SANUPS SOFTWARE]）

<情報>

Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を Server Core で使用している場合、SANUPS SOFTWARE インストール先フォルダに移動し、コマンドラインから“sg4 0”を実行します。

・ Windows以外のOSの場合

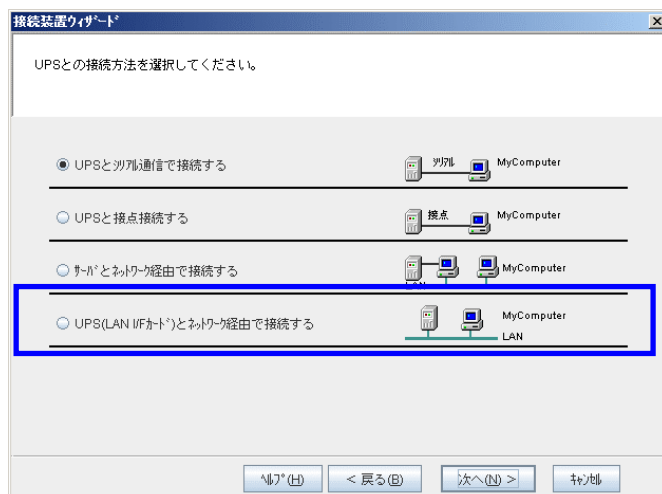
SANUPS SOFTWAREインストール先ディレクトリに移動し、“./sg4 0”を実行します。



SANUPS SOFTWARE を起動すると、左図の画面が表示されます。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS 接続方法の選択）へ移ります。

(B) UPS接続方法の選択



「UPS (LAN I/F カード)とネットワーク経由で接続する」を選択します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（ネットワーク設定）へ移ります。

(C) ネットワークの設定



ネットワーク接続する情報を設定します。

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

LAN インタフェース付き UPS に設定してあるネットワーク情報を設定します。

自コンピュータのネットワークを設定します。
ネットワークカードを複数枚使用している場合は、接続に使用するネットワークを選択します。

設定項目	内容
UPS 情報	LAN インタフェース付き UPS に設定してあるネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名または IP アドレスを設定（※1）
コンピュータ情報	自コンピュータのネットワーク情報を設定します。 ネットワーク名または IP アドレスを設定（※1）

（※1）DHCP などを使い、ネットワーク名による管理をしている場合は、
「ネットワーク名」を使用してください。

セットアップ

(D) UPSアカウントの入力

UPS管理者アカウントを入力します。
デフォルト設定値の、
管理者 : **upsadmin**
パスワード : **UpsAdmin** (注1)
を入力してください。
「OK」ボタンをクリックします。
ユーザ認証確認後、次画面へ移ります。

(注1) パスワードは、大文字／小文字
の区別を行います。

(E) Wake On LAN の設定

お使いのコンピュータが**Wake On LAN** 機能に対応している場合、UPSからの電源供給後、コンピュータの電源自動投入が可能になります。

Wake On LAN 機能の設定を行います。
(コンピュータ環境がわからない場合は、「設定をしない」としてください。
この設定の有無は、UPS管理システムの動作には影響しません。)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面
(コンピュータ情報入力)へ移ります。

<情報>

セットアップ完了後、設定画面から設定内容を変更することができます。
設定方法は、ユーザガイド「6. 機能説明」を参照してください。

(F) コンピュータ情報の入力

UPSの履歴情報の保存条件、シャットダウンタイプならびに設置場所などの付属情報を設定します。また、LAN I/F カードとの通信接続が切れた場合の動作設定も行えます。コンピュータの「**設置場所**」、「**コメント**」は空白のまま、次に進んでも問題ありません。「**次へ(N)**」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

<情報>

UPS に複数台のコンピュータを接続して管理する場合、「**設置場所**」、「**コメント**」を入力してあると、管理が容易になります。

※シャットダウンタイプの種類と使い方

シャットダウンタイプ	説 明
シャットダウン	コンピュータをシャットダウンします。
シャットダウンと電源OFF	コンピュータをシャットダウン後、コンピュータの電源をOFFします。ここでいう電源OFFとはUPSの出力OFFではなく、コンピュータ自身の電源OFFです。 (APCI[Advanced Power Configuration Interface] 対応の Windows のみ設定できます。)
休止	コンピュータを休止します。 (休止が有効となっている Windows のみ設定できます。) <u>スケジュール運転を行う場合は、この設定はしないでください。</u> この設定を使用してスケジュール運転を行うと、休止・再開に伴うポップアップ・メッセージが蓄積します。

Windows を使用し、復電後にコンピュータの自動起動を行う場合は、「付録A Windows 版をお使いになる際の注意事項」の「コンピュータの自動起動機能の制約について」を参照してください。

(G) UPS出力コンセント接続設定

本画面は、接続するLANインタフェース・カードを組み込んだUPSが複数系統出力機能を持っている場合に表示されます。

接続するLANインタフェース・カードを組み込んだUPSが複数系統出力機能を持っていない場合、または **LAN ADAPTER**に接続する場合、本画面は表示されません。
その場合、コンセント番号は自動的に「1」固定となります。



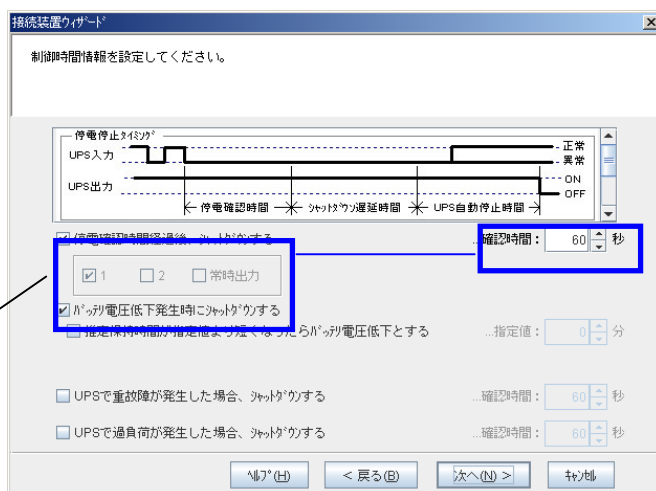
コンピュータを接続しているUPS の出力コンセント番号を選択します。

(UPS の「OUTPUT1」に接続している場合は、コンセント番号「1」を選択します。)

「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面へ移ります。

「常時出力」には、シャットダウン不要な周辺機器等は接続できますが、コンピュータは「常時出力」には接続しないようにしてください。

(H) UPS制御情報設定-1 (シャットダウン開始条件)



UPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（UPS制御情報設定-2）へ移ります。

停電状態が「確認時間」の間継続した場合に、コンセント番号「1」、「2」、「常時出力」（コンセント番号「0」）の各コンセントに登録されているコンピュータが、シャットダウンシーケンスを行うかどうかを設定します。
（複数系統出力機能を持っていないUPSの場合、コンセント番号「1」のみ設定可能となります。）

・コンセント番号にチェックを入れた場合

チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスを行います。

・コンセント番号のチェックをはずした場合

チェックを入れたコンセント番号に接続／登録されているコンピュータは、停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。（バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンを行います）

なお、「停電確認時間経過後、シャットダウンする」のチェックをはずした場合、全てのコンピュータは、バッテリー電圧低下発生まで停電時のシャットダウンシーケンスは行いません。

（但し、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」のチェックを外した場合は、バッテリー電圧低下発生となってもシャットダウンは行われません。）

注意：

「停電確認時間経過後、シャットダウンする」、「バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンする」の両方のチェックを外した場合、停電時コンピュータのシャットダウンは行われません。

長時間の停電の場合は、自動シャットダウン行わずに、バッテリー放電終止によりUPS停止となる場合があります。

この2つの設定項目のチェックを外す場合は、動作を理解した上で行ってください。

セットアップ

(I) UPS制御情報設定-2



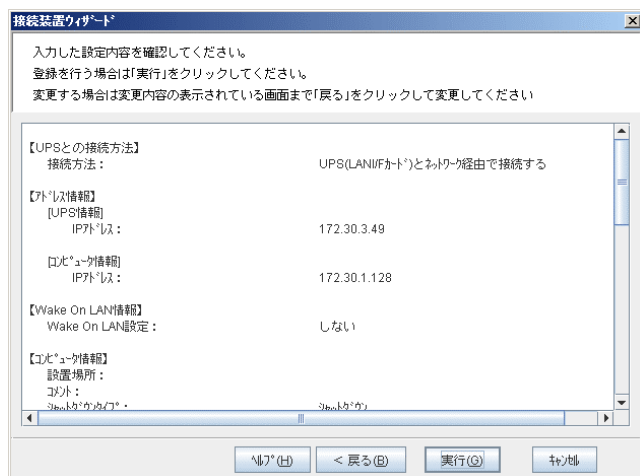
前画面に引き続いてUPSの制御に関する設定を行います。

設定後、「次へ(N)」ボタンをクリックし、次画面（設定情報確認）へ移ります。

<情報>

LAN インタフェースカードの種類により、「停電時、UPS を自動停止する」、「復電時、UPS を自動起動する」のデフォルト設定値が異なる場合があります。お使いの環境に合うように、設定値を確認してください。

(J) 設定情報確認

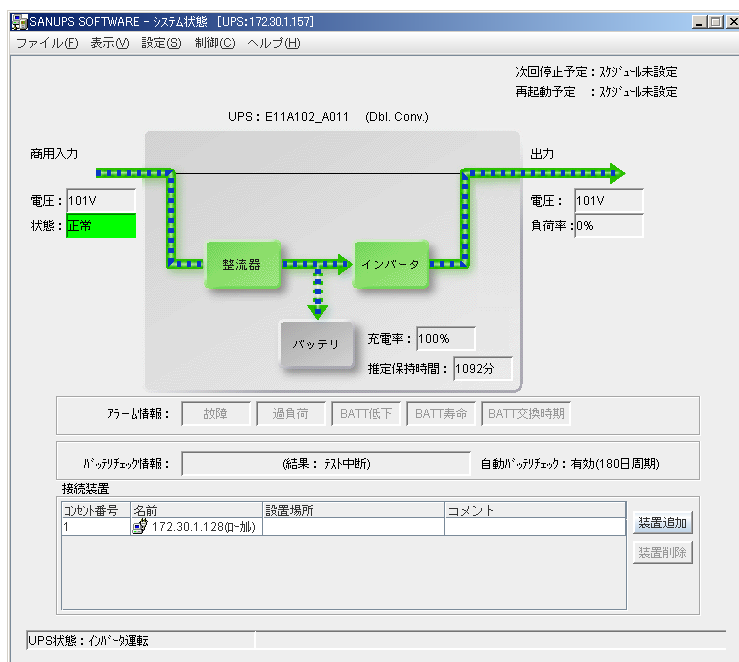


ウィザード機能で設定した内容を確認する画面です。

設定内容がよろしければ「**実行(G)**」ボタンをクリックしてください。

設定内容を変更したい場合は、「**戻る(B)**」ボタンをクリックし、該当する画面まで戻ってください。

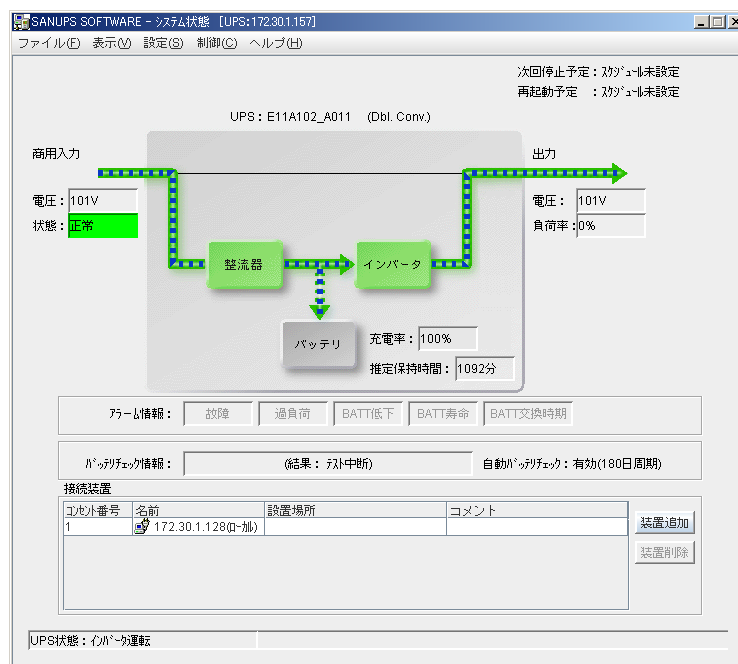
↓ 「**実行(G)**」ボタンをクリック（設定完了）



SANUPS SOFTWAREメイン画面が表示されます。

セットアップ

(K) 自コンピュータの接続を確認



「接続装置」に、自コンピュータが登録表示されます。

(ローカル)と付いているコンピュータが自コンピュータになります。

(L) 接続確認

- ①UPSの入力をOFFするなどの擬似停電を発生させます。
- ②停電発生メッセージが画面表示されることを確認します。
- ③メッセージ表示後、直ちに擬似停電を復旧します。

擬似停電発生後、停電発生メッセージが表示されない場合、以下の確認を行ってください。

- ・UPSとのLANケーブルが正しく接続されているか
- ・**SANUPS SOFTWARE** サービスプログラムが動作しているか
(サービスの動作は、「ユーザガイド」の「付録A. サービスの操作」を参照してください)
- ・ファイアウォールが有効になっていないか
(「付録」に **Windows**、および主な **Linux** バージョンのファイアウォール設定について記載がありますので参照してください。)

情報：

シャットダウンテスト機能を使用し、このコンピュータ単体でシャットダウン確認を行うことができます。

4.2 設定ウィザード機能（CUI版設定ツール）

GUI（グラフィカル・ユーザ・インタフェース）環境が無い場合には、キャラクタ・ベースのツールにより設定を行うことが可能です。（UNIX、Linuxのみ）

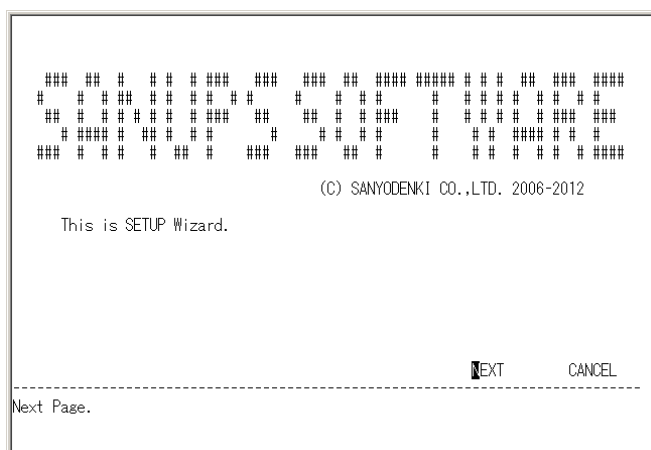
本処理を行うことで、お使いのコンピュータが停電時に自動シャットダウンを行えるようになります。

接続ウィザードで登録する内容は、後から同ツールを使用し変更することができます。

この設定は、UPSサービスをインストールしたWSだけでなく、管理者用のリモートPCからも行うことができます。

4.2.1 接続UPSの登録（セットアップ）について

- (A) コンソールまたはターミナルから**SANUPS SOFTWARE**インストールディレクトリ内の
“**/sg4setup**”コマンドを入力して実行します。（※1）
- (B) 設定ウィザードが起動します。「**NEXT**」にカーソルをあわせ、スペースキーで決定して次の画面に進みます。（カーソルの移動は、矢印キーで行います）



- (※1) **sg4setup** ツールは、UPS登録後の設定においても同様に利用できます。

セットアップ

- (C) UPSとの接続方法を選択します。選択する接続方法にカーソルをあわせ、スペースキーで選択します。選択された接続方法には*が付きます。

接続方法を選択したら「NEXT」にカーソルを移動し、スペースキーで決定します。

項 目	説 明
Direct Connection with Serial Cable.	UPSとシリアルケーブルで接続します。
Network Connection for SANUPS SOFTWARE Server.	サーバとネットワーク経由で接続します。 (UPSとシリアルケーブルで接続されたコンピュータと接続する場合)
Network Connection for UPS(LAN I/F Card).	UPS(LAN/IFカード)とネットワーク経由で接続します。

「Direct Connection with Serial Cable.」を選択した場合

→ (D) へ進んでください。

「Network Connection for SANUPS SOFTWARE Server.」 または、

「Network Connection for UPS(LAN I/F Card).」を選択した場合

→ (F) へ進んでください。

- (D) UPSの使用環境を選択します。ネットワーク環境を使用してUPSサーバとして使用するか、または ネットワーク環境を使用せずにスタンドアロンで使用するかを設定します。

使用環境を設定後、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定します。

（カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに（+）がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。）

UPS Connection Information

Use Network Environment (+) Yes

Computer

 Network Name / IP Address (+) IP Address

 Network Name

 IP Address (+) 172.30.3.7

BACK **NEXT** CANCEL

Next Page.

項 目	説 明
Use Network Environment	ネットワーク環境を使用 する(Yes)/しない(No) を選択します。
Network Name / IP Address	ネットワークの設定方法を選択します。
Network Name	「Network Name / IP Address」の設定で「Network Name」を選択時、ネットワーク名を入力します。
IP Address	「Network Name / IP Address」の設定で「IP Address」を選択時、お使いのコンピュータに複数のIPアドレスがある場合、UPS管理用に使用するIPアドレスを選択します。

セッアップ

- (E) シリアルケーブルの接続方法を選択します。ご使用の環境に合わせて、接続方法の設定を行います。設定内容を確認後「NEXT」にカーソルを移動し、スペースキーで決定します。
(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)

UPSとシリアル接続する場合の設定画面

Serial Cable Information

Serial Port Type (+)

Communication

Serial Port Name (+)

/dev/term/a

BACK

NEXT

CANCEL

Next Page.

項 目	説 明
Serial Port Type	「シリアル接続(Communication)」を選択します。接点接続に変更する場合は、「接点接続(Contact)」を選択します。
Serial Port Name	ご使用のコンピュータのシリアルポート（デバイス名）を選択します。

シリアルケーブルの接続方法設定後は、（G）へ進んでください。

UPSと接点接続する場合の設定画面

Serial Cable Information

Serial Port Type (+)

UPS Type (+)

Output Signal

Power Failure (+)

Low battery voltage (+)

UPS Stop (+)

Serial Port Name (+)

Contact

ASA

LOW

HIGH

HIGH

/dev/term/a

BACK

NEXT

CANCEL

Next Page.

項 目	説 明
Serial Port Type	「接点接続(Contact)」を選択します。シリアル接続に変更する場合は、「シリアル接続(Communication)」を選択します。
UPS Type	UPSの機種を選択します。※1
Out Put Signal	
Power Failure	電源障害信号の有効／無効および電源障害信号極性が表示されます。LOW/HIGHを選択できます。
Low battery voltage	バッテリー電圧低下信号の有効／無効およびバッテリー電圧低下信号極性が表示されます。LOW/HIGHを選択できます。
UPS Stop	無停電電源シャットダウンの有効／無効およびリモート無停電電源シャットダウン極性が表示されます。LOW/HIGHを選択できます。
Serial Port Name	ご使用のコンピュータのシリアルポート（デバイス名）を選択します。

※1 「UPS Type」で該当するUPS機種が存在しない場合は”OTHER”を選択し、「Out Put Signal」でUPSの極性設定をします。（「Out Put Signal」の各項目は、「UPS Type」に”OTHER”が選択されたときのみ変更可能となります。）各極性の設定値についての詳細は、ご使用のUPS付属の説明書を参照してください。

シリアルケーブルの接続方法設定後は、（G）へ進んでください。

セットアップ

- (F) UPSのネットワーク名またはIPアドレス、およびコンピュータのネットワーク名またはIPアドレスを入力します。入力されているネットワーク名、IPアドレスが正しく設定されていることを確認し、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。

（カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに（+）がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。）

項 目	説 明
UPS	
Network Name / IP Address.	ネットワークの設定方法を選択します。
Network Name	ネットワーク名を入力します。
IP Address	IPアドレスを入力します。
Computer	
Network Name / IP Address.	ネットワークの設定方法を選択します。
Network Name	ネットワーク名を入力します。
IP Address	コンピュータに複数のIPアドレスがある場合、UPSと通信可能なネットワークアドレスを選択します。

<注意 1>

ネットワーク名を指定した場合、指定したネットワーク名を DNS サーバなどにより IP アドレスに変換する必要があります。

＜注意2（LAN インタフェースカード使用時）＞

DNS サーバがなく、名前変換を行わない環境で使用されている場合、設定方法「**Network Name**」選択のまま、アドレス設定を行うと「**ERROR:Invalid Network Name**」となります。

（↑ ↓キーでの操作が行えなくなります）これは、ネットワーク名「**. (ドット)付き**」が入力されるのを待つためです。

もし、IP アドレスでの登録を行う際、上記状態になった場合は、「**Network Name**」の状態で「**. (ドット)**」を入力することで、↑ ↓キーの操作が可能となります。設定方法を「**IP Address**」に変更して登録を続けてください。

セットアップ

- (G) UPS管理用のユーザ名とパスワードの入力を行い、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。（カーソルに移動は、矢印キーで行います。）

The image shows a screen titled "Account Information". Below the title, there are two input fields: "User Name" and "Password". At the bottom of the screen, there are three buttons: "BACK", "NEXT" (which is highlighted with a black background and white text), and "CANCEL". Below the buttons, there is a dashed line and the text "Next Page.".

項 目	説 明
User Name	ユーザネームを入力します。 (大文字／小文字の区別は行いません。)
Password	パスワードを入力します。 (大文字／小文字の区別を行います。)

UPS管理者アカウントを入力します。

デフォルト設定値は、

User Name : **upsadmin**

Password : **UpsAdmin** (注1)

を入力してください。

(注1) パスワードは、大文字／小文字の区別を行います。

UPSとシリアルケーブルで接続する設定の場合は、次に (I) の画面へ移ります。

- (H) **WakeOnLAN**の設定を行います。**WakeOnLAN**実行条件の選択、MACアドレスの入力を行い、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。

(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)

Wake On LAN Information

Wake On LAN (+) Disable
 MAC Address Acquisition Condition (+) Automatic
 MAC Address 00-0C-29-93-A6-FC
 Default MAC Address (+) Press Space
 Magic Packet Send Delay Time(sec) 0

BACK NEXT CANCEL

Next Page.

項 目	説 明
Wake On LAN	Wake On LANを使用 する(Enable)／しない(Disable) を指定します。
MAC Address Acquisition Condition	「Wake On LAN」で“Enable”を指定した場合、MACアドレスの取得方法を指定します。 (自動で取得する(Automatic)／手動で設定する(Fixation))
MAC Address	「MAC Address Acquisition Condition」で“Fixation”を選択した場合、MACアドレスを指定します。
Default MAC Address	「MAC Address Acquisition Condition」で“Fixation”を選択した場合、「MAC Address」に自コンピュータのMACアドレスを表示させます。
Magic Packet Send Delay Time (※)	Magic Packetを送信する際の遅延時間（秒）を指定します。

- (※) 本設定値は、LANインタフェースカード使用時に設定が可能です。ただし、本設定に未対応のLANインタフェースカードでは、設定は行えません。

セットアップ

- (I) コンピュータの設置場所、説明の入力を行います。必要に応じて入力を行い、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。
(カーソルの移動は、矢印キーで行います。)

Computer Information

Location

Comment

BACK NEXT CANCEL

Next Page.

項 目	説 明
Location	設置場所を入力します。(空白可)
Comment	コメントを入力します。(空白可)

- (J) コンピュータに電源供給を行うUPSのコンセント番号の設定を行います。設定内容を確認後、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。なお、本設定は、使用しているUPSが複数系統出力に対応している場合に設定が可能です。（複数系統出力に対応していないUPSを使用している場合は、本設定画面が表示されません）
- （カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに（+）がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。）

項 目	説 明
Outlet No.	コンピュータへの給電を行うコンセント番号を選択します。 “1” コンセント1 “2” コンセント2 “0(Continuous Output)” 常時出力

「常時出力」には、シャットダウン不要な周辺機器等は接続できますが、コンピュータは「常時出力」には接続しないようにしてください。

セットアップ

(K) シャットダウントリガの設定を行います。設定内容を確認後、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。

(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)

項 目	説 明
Power Failure	
Enable Outlet	停電確認時間経過後、シャットダウンを行うコンセント番号を指定します。
Confirmation Time(sec)	停電確認時間を秒で指定します。
Low battery voltage	
Shutdown execution.	バッテリー電圧低下発生時にシャットダウンします。
Condition of until Low battery	バッテリーの推定保持時間が指定値より短くなったらバッテリー電圧低下とする(Enable)／しない(Disable) を指定します。
Specified value.(min)	バッテリーの推定保持時間の指定値を分で指定します。
Other	
Communication trouble.	UPSとシリアル通信異常が発生した場合、シャットダウン する(Enable)／しない(Disable) を指定します。
Major breakdown occurs.	UPSと重故障が発生した場合、シャットダウン する(Enable)／しない(Disable) を指定します。
Overload occurs.	UPSと過負荷が発生した場合、シャットダウン する(Enable)／しない(Disable) を指定します。
Confirmation time(sec)	各シャットダウントリガの確認時間を秒で指定します。

(L) UPS停止制御の設定を行います。設定内容を確認後、「NEXT」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。

(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)

Control Configuration

Shutdown Delay(sec)	30
UPS Auto Stop Time	120
UPS Auto Stop (+)	Enable
UPS Auto Start (+)	Enable
Battery charge rate(%)	0

BACK NEXT CANCEL

Next Page.

項 目	説 明
Shutdown Delay(sec)	シャットダウン遅延時間を秒で指定します。
UPS Auto Stop Time	UPSの自動停止時間を秒で指定します。
UPS Auto Stop	停電時にUPSを自動停止 する(Enable)／しない(Disable) を指定します。
UPS Auto Start	復電時にUPSを自動起動 する(Enable)／しない(Disable) を指定します。
Battery charge rate(%)	バッテリー充電率が指定値以上になったらUPS出力をオンするように設定します。(UPSが未対応の場合は設定不可) 指定値を0%に設定した場合、停電回復時には即時にUPS出力をオンします。

<情報>

UPS停止制御時の初期値は以下の通りです。

(停電が発生してから約3分30秒後にUPSが停止します。)

- 停電確認時間 : 60秒
- シャットダウン遅延時間 : 30秒
- UPS停止時間 : 120秒

セットアップ

- (M) 自コンピュータへのUPSの状態・計測値履歴の保存情報の設定、および、シャットダウン実行時の動作時間設定を行います。設定内容を確認後、「EXEC」にカーソルを移動してスペースキーで決定してください。

以上で設定は完了です。

(カーソルの移動は、矢印キーで行います。項目名の後ろに(+)がある項目は、スペースキーで設定内容を選択できます。)

UPSとシリアルケーブル接続している構成の場合

UPS Information

Store UPS Status/Values Log (+)	Yes
Collection Interval(sec)	600
Store Term(date)	30
Store Directory	/usr/sg4/service/PCLOG
Store UPS Event Log	
Store Term(date)	30
Shutdown wait time(sec)	0
User command Exec(sec)	0

BACK EXEC CANCEL

Execute.

項 目	説 明
Store UPS Status/Values Log	UPSの状態・計測値の履歴を記録 する(Yes)/しない(No) の指定をします。
Collection Interval (sec)	UPS監視間隔を秒で指定します。
Store Term(date)	記録期間を日数で指定します。
Store Directory	ログファイルの保存先ディレクトリが表示されます。 (変更は不可)
Store UPS Event Log Store Term(date)	イベント情報の記録期間を日数で指定します。
Shutdown wait time	シャットダウン遅延時間経過後、「シャットダウン実行」イベントのスクリプトを実行するまでの待機時間を秒で指定します。
User command Exec	「シャットダウン実行」のイベントスクリプト実行に必要な時間を秒で指定します。 (「Shutdown wait time」と「User command Exec」の経過後、シャットダウンが開始されます。この時間を使い、コンピュータ毎にシャットダウン開始まで遅延を設定できます)

LANインタフェースカードを使用している構成の場合

UPS Information

Store UPS Status/Values Log (+)

Collection Interval(sec)

Store Term(date)

Store Directory

Store UPS Event Log

Store Term(date)

UPS Connection Trouble

Auto Shutdown (+)

Wait Time(sec)

Connection Trouble UPS Counts (+)

Shutdown wait time(sec)

User command Exec(sec)

BACK

EXEC

CANCEL

Execute.

項 目	説 明
Store UPS Status/Values Log	UPSの状態・計測値の履歴を記録 する(Yes)/しない(No) の指定をします。
Collection Interval (sec)	UPS監視間隔を秒で指定します。
Store Term(date)	記録期間を日数で指定します。
Store Directory	ログファイルの保存先ディレクトリが表示されます。 (変更は不可)
Store UPS Event Log	
Store Term(date)	イベント情報の記録期間を日数で指定します。
UPS Connection Trouble	
Auto Shutdown	UPSとの通信が異常になった場合に、自動的にシャットダウンする(Yes)/しない(No) を指定します。
Wait Time(sec)	「Auto Shutdown」で「Yes」を選択した場合に、シャットダウンの警告メッセージが表示されてからシャットダウンするまでの時間を、秒で指定します。
Connection Trouble UPS Counts	UPS連携機能に対応しているLANインタフェースカード使用時に、何台のUPSと通信異常になった場合にシャットダウンするか台数を選択します。
Shutdown wait time	シャットダウン遅延時間経過後、「シャットダウン実行」イベントのスクリプトを実行するまでの待機時間を秒で指定します。
User command Exec	「シャットダウン実行」のイベントスクリプト実行に必要な時間を秒で指定します。 (「Shutdown wait time」と「User command Exec」の経過後、シャットダウンが開始されます。この時間を使い、コンピュータ毎にシャットダウン開始まで遅延を設定できます)

5. SANUPS SOFTWAREの動作について

SANUPS SOFTWAREの動作等に関しては、「ユーザガイド」を参照してください。

ユーザガイドは、PDFファイルでの提供となります。

Acrobat Reader7.0 以降を使用して参照してください。

6. アンインストール

SANUPS SOFTWAREをアンインストールするには、以下の作業を行ってください。

以降の操作は、管理者権限（Administrators、root）を持ったユーザで実施してください。

サーバ/クライアント構成で使用している、または LAN インタフェースカード構成で使用している場合、自装置の登録情報を削除する前に、アンインストールを行うと、自装置の情報がサーバ装置側、または LAN インタフェースカード側に残ったままになります。

アンインストールを行う前に、自装置の登録情報を削除してから、アンインストールを行ってください。

6.1 Windowsの場合

●SANUPS SOFTWAREのアンインストール

- ①タスクバーの[スタート]メニューから、[コントロール パネル]を選択します。
- ②コントロールパネル内の以下に示す機能を選択します。
 - ・ [アプリケーションの追加と削除] (Windows 2000の場合)
 - ・ [プログラムの追加と削除] (Windows XP、Windows Server 2003の場合)
 - ・ [プログラムと機能] (Windows Vista、Windows Server 2008以降の場合)
- ③アプリケーションの一覧から「UPS管理システムSANUPS SOFTWARE」を選択して実行します。「プログラムを修復、または削除します。」画面にて「削除」を選択し、削除を行います。

●Windows Server 2008、または Windows Server 2012 を Server Coreで使用している場合のアンインストール

<SANUPS SOFTWAREのCD-ROMがある場合>

- ①CD-ROMドライブにSANUPS SOFTWAREのCD-ROMをセットします。
- ②CD-ROM内のインストールプログラム（Setup.exe）を起動します。
- ③「言語の選択」にインストール時に選択した言語を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

- ④「プログラムを修復、または削除します。」画面にて「削除」を選択し、削除を行います。

＜SANUPS SOFTWAREのCD-ROMがない場合＞

- ①インストールフォルダへ移動します。
(デフォルトインストールフォルダ C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE)
- ②コマンドラインからUPSサービスを停止します。
- ③コマンドラインからUPSサービス(SGUPSSVC.exeとSGSVC.exe)のエントリを削除します。
- ④コマンドラインからアンインストールを実行します。

実行コマンド例 (デフォルトインストールフォルダの場合)

```
D:\>cd c:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE .....①
C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE >net stop SGSVC .....②
C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE >SGUPSSVC.exe /UnRegServer .....③
C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE >SGSVC.exe /UnRegServer .....③
C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE >wmic product where name="SANUPS SOFTWARE " call uninstall
.....④
```

6.2 Solarisの場合

●SANUPS SOFTWAREサービスプログラムを停止します

UPS管理システム動作中の場合、次のコマンドを実行しサービスプログラム停止を行います。

```
# cd /etc/init.d <Return>
# ./sg4lite stop <Return>
```

●SANUPS SOFTWAREプログラムのアンインストール

サービスプログラムの停止処理を行った後、**pkgrm**コマンドを使用しアンインストールします。

```
# pkgrm SANYupsd <Return>
```

次のパッケージは現在インストールされています:

SANYupsd	SANUPS SOFTWARE
	(sparc) 2.0.0

このパッケージを削除しますか [y,n,?,q] **y**

このパッケージには、パッケージの削除の処理中にスーパーユーザーのアクセス権で実行されるスクリプトが含まれています。

このパッケージの削除処理を継続しますか [y,n,?,q] **y**
:

<SANYupsd>の削除に成功しました。

6.3 HP-UXの場合

●SANUPS SOFTWAREサービスプログラムを停止します

UPS管理システム動作中の場合、次のコマンドを実行しサービスプログラム停止を行います。

```
# cd /sbin/init.d <Return>
# ./sg4lite stop <Return>
```

●SANUPS SOFTWAREプログラムのアンインストール

サービスプログラムの停止処理を行った後、**sg4uninstall**コマンドを使用しアンインストールします。

```
# cd <インストール先ディレクトリ>
```

デフォルトのインストール先の場合： `cd /usr/sg4`

```
# ./sg4uninstall <Return>
```

```
*** 確認 *** 本当に消去してよろしいですか？ [y/n] (n) :y
```

アンインストールする場合は、**‘y’**を入力します。

<以下、**swremove** コマンドのメッセージが表示されます>
：

ソフトウェアを消去しました

6.4 AIXの場合

●SANUPS SOFTWAREサービスプログラムを停止します

UPS管理システム動作中の場合、次のコマンドを実行しサービスプログラム停止を行います。

```
# cd <インストール先ディレクトリ>/service <Return>
```

デフォルトのインストール先の場合： `cd /usr/sg4/service`

```
# ./sg4lite stop <Return>
```

●SANUPS SOFTWAREプログラムのアンインストール

サービスプログラムの停止処理を行った後、**sg4uninstall**コマンドを使用しアンインストールします。

```
# cd <インストール先ディレクトリ>
```

デフォルトのインストール先の場合： `cd /usr/sg4`

```
# ./sg4uninstall <Return>
```

```
*** 確認 *** 本当に消去してよろしいですか？ [y/n] (n) y
```

アンインストールする場合は、**‘y’**を入力します。

ソフトウェアを消去しました

6.5 Linuxの場合

●SANUPS SOFTWAREサービスプログラムを停止します

UPS管理システムが動作中の場合、

```
cd /etc/init.d  
./sg4lite stop
```

を実行します。

●SANUPS SOFTWAREプログラムのアンインストール

```
cd <インストール先ディレクトリ>  
./sg4uninstall
```

を実行します。

「Uninstall continue(y/n)?」と表示されたら「**y**」を入力し、**RETURN**キーを押下します。

「Ok(y/n)?」と再確認の表示がされたら「**y**」を入力し、**RETURN**キーを押下します。

「Uninstall Completed.」と表示されたらアンインストール完了です。

付録A Windows版をお使いになる際の注意事項

コンピュータの自動起動機能の制約について

1. 以下のOSをお使いの場合、ご使用中のコンピュータによっては、UPSからの電源供給によるコンピュータの自動起動が行われない場合があります。

Windows XP SP1

Windows Server 2003（サービスパックなし）

ご使用中のコンピュータにおいて電源オフ機能がサポートされている場合、コンピュータのシャットダウンが行われた後に（“**コンピュータの電源を切断しても安全です。**”のメッセージが表示されずに）電源が切れます。このとき、UPSからの電源供給が行われた場合でも、コンピュータのPowerON操作を行わないと起動できない場合があります。

コンピュータの自動起動は、コンピュータ側のハードウェア設定（BIOS設定）に依存しているため、BIOS設定内容を変更することでコンピュータの自動起動が行える場合があります。

例えば、

- ・「電源供給時にコンピュータをすぐさま起動する機能」を有効にする。
- ・WakeUp機能（リング信号、WakeOnLAN等）を有効にする。

などです。

ただし、BIOS設定内容は、コンピュータの機種により異なります。

詳しくは、コンピュータの取扱説明書、またはコンピュータの購入先へお問い合わせください。

<注意>

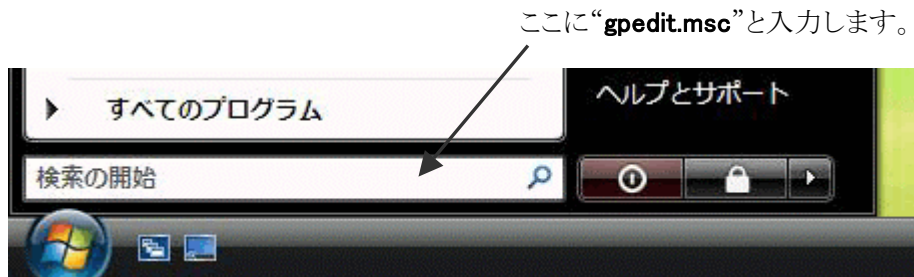
BIOS設定を変更する場合は、コンピュータの取扱説明書をお読みになり、お客様の責任において実施してください。

2. **Windows XP**以降のOSにおいては、UPS管理ソフトでシャットダウンが行われた後に（“**コンピュータの電源を切ることができます。**”のメッセージが表示されずに）自動的に電源オフする場合は、UPSから電源供給を行ってもコンピュータが自動起動しない場合があります。

これを回避するため、以下の手順に従い、UPS管理ソフトからのシャットダウン時に、自動的に電源オフしないように設定を変更してください。

＜手順＞Windows XP～Windows Server 2008R2までの場合

- [1][スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックし、“gpedit.msc”を実行します。
または、Windows Vista 以降のOSにおいては、[スタート]メニューの検索欄を使用し、“gpedit.msc”を実行します。



※上記画面はWindows Vistaのものです。

- [2][ローカルコンピュータポリシー]－[コンピュータの構成]－[管理用テンプレート]－[システム]を開きます。
[3][Windows システムのシャットダウンのときに電源を切らない]をダブルクリックします。
[4][設定]タブの[有効]を選択し、[OK]をクリックします。

※Windows sever 2008 Server Core の場合、リモートマシン(Windows Vista 以降のWindows OS)からMMCを使用して、[グループポリシーオブジェクトエディタ]から [Windowsシステムのシャットダウンのときに電源を切らない]の[有効]設定を行ってください。設定後、グループポリシーの設定変更を有効にするため、OSを再起動してください。

＜手順＞Windows 8 Pro / Enterprise、Windows Server 2012の場合

- [1][スタート]画面の検索欄に「Edit Group Policy」を入力します。[設定]をクリックし、「グループポリシーの編集」を選択します。（同様な方法としては、「コマンドプロンプト」を開き、“gpedit”を実行します。）
[2][ローカル グループ ポリシー エディター]画面が開きます。[ローカルコンピュータポリシー]－[コンピュータの構成]－[管理用テンプレート]－[システム]を開きます。
[3][Windows システムのシャットダウンのときに電源を切らない]をダブルクリックします。
[4][設定]タブの[有効]を選択し、[OK]をクリックします。

Windows 8 Pro / Enterprise 以外の Windows 8 では、[ローカル グループ ポリシー エディター]は起動できません。そのため、BIOS 設定により電源給電時にコンピュータを起動するように設定を行う、または Wake Up 機能を利用して、コンピュータを自動起動するようにします。

ターミナルサービスを利用される場合の制約について

Windows XP以降のターミナルサービス（リモートデスクトップ接続）をご利用になる際、以下の条件で動作した場合、シャットダウンが行われない場合があります。

スケジュール機能等でコンピュータの自動シャットダウンを行う際に、（UPS管理ソフトの設定値）シャットダウンの遅延を「無限に繰り返す」に設定されている場合（全てのユーザがログオフするまで待つ設定がされている）、リモートクライアント側でログオフせずにセッションを終了している（切断状態の）ユーザがいると、シャットダウンが行われません。

これは、切断状態のユーザはターミナルサーバ上では、ログオン状態であるとみなされているためです。ただし、停電時のシャットダウン動作時は、上記の条件に関係なくシャットダウンは行われます。

Windowsファイアウォールのご使用にあたって

「Windows ファイアウォール」が有効の場合、UPS 管理ソフトはネットワーク通信を行うことができません。（ファイアウォールが「無効」に設定されている場合は、問題ありません。）

UPS 管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合（※）は、ファイアウォールを通過できる「例外」の設定が必要となります。

※ UPS 管理ソフトのサーバクライアント構成、または LAN I/F 付き UPS に接続する場合

<手順> Windows XP, Windows Server 2003 の場合

- ①[スタート]メニューから[コントロールパネル]－[Windowsファイアウォール]を選択します。
- ②Windows ファイアウォール画面の[例外]タブを開き、UPS管理ソフトのインストールフォルダにある「SGUPSSvc.exe」を例外として追加登録します。
（デフォルトインストールフォルダ C:\Program Files\Sanyodenki\SANUPS SOFTWARE ）
- ③Windows ファイアウォール画面の[詳細設定] タブを開き、ICMPの設定ボタンを選択し、「エコー要求の着信を許可する」をチェックして、ICMPの受信を許可します。
- ④UPS管理ソフトのGUIツールを起動すると、「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージ（名前：javaw）が表示される場合があります。この場合、「ブロックを解除する」を選択します。これにより、GUIツール（javaw）が、Windowsファイアウォールの例外に追加されます。

「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージにおいて、「ブロックする」または「後で確認する」を選択した場合は、上記①～②の手順により、UPS管理ソフトのインストールフォルダ配下のJRE¥binフォルダにある「javaw.exe」を例外として追加登録してください。

(デフォルトインストールフォルダ C:¥Program Files¥Sanyodenki¥SANUPS SOFTWARE¥JRE¥bin)

<手順>Windows Vista , Windows Server 2008以降の場合

- ①Windows Vista、Windows 7の場合、[スタート]メニューから[コントロールパネル]－[管理ツール]－[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]を選択します。

Windows Server 2008の場合、[スタート]メニューから[管理ツール]－[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]を選択します。

Windows 8、Windows Server 2012の場合、[設定]から[コントロールパネル]－[管理ツール]－[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]を選択します。

- ②[受信の規則]を選択して、右クリックメニューの[新規の規則]を選択します。規則の種類「プログラム」を選択し、[次へ]をクリックします。[このプログラムのパス]にUPS管理ソフトのインストールフォルダにある「SGUPSSvc.exe」を参照入力し、[次へ]をクリックします。

(デフォルトインストールフォルダ C:¥Program Files¥Sanyodenki¥SANUPS SOFTWARE)

「接続を許可する」を選択し、[次へ]をクリックし、適用するネットワークを選択して、[次へ]をクリックします。

規則の名前（例: SGUPSSvc-Rule）を入力して、[完了]をクリックします。

- ③「受信規則」の中の「ファイルとプリンタの共有(エコー要求 - ICMPv4 受信)」の規則をダブルクリックして、全般タブにある[有効]のチェックボックスをオンにして、ICMPの受信を許可します。

- ④UPS管理ソフトのGUIツールを起動すると、「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージ（名前: Java(TM)2 Platform Standard Edition binary）が表示される場合があります。この場合、「ブロックを解除する」を選択します。

これにより、GUIツール（javaw）が、Windowsファイアウォールの例外に追加されます。

「Windowsセキュリティの重要な警告」のメッセージにおいて、「ブロックする」を選択した場合は、上記①～②の手順により、UPS管理ソフトのインストールフォルダ配下のJRE¥binフォルダにある「javaw.exe」を受信の規則に新規設定登録してください。

(デフォルトインストールフォルダ C:¥Program Files¥Sanyodenki¥SANUPS SOFTWARE¥JRE¥bin)

※Windows Sever 2008、およびWindows Server 2012を Server Core環境で使用している場合、リモートマシン（Windows Vista 以降のWindows OS）からMMCを使用して、[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]から「SGUPSSvc.exe」および「javaw.exe」を受信の規制に新規設定登録、および ICMPの受信許可の設定を行ってください。

Windows Server 2003、Windows Server 2008でのご使用にあたって

ターミナルサービスをご利用になる場合：

メッセージ送信機能により送信先が「ローカル」に指定されているメッセージは、コンソールおよびリモートクライアント全てに表示されます。

ただし、システム管理者の確認が必要となるメッセージについては、ユーザを限定して表示を行います。メッセージの表示は、原則としてコンソールに対して行いますが、ログオンユーザがリモートクライアントのみの場合は、最初に検出されたアクティブなログオンユーザとなります。

対象となるメッセージは以下の通りです。

- ・ 接続UPSが設定されていない場合の警告メッセージ
- ・ UPSとの通信異常が発生した場合のシャットダウン確認メッセージ
(UPSとの通信異常が発生した場合に、シャットダウンを行う設定の場合のみ)

イベントビューアのシステムログについて

Windows Vista以降のOSにSANUPS SOFTWAREをインストールした時にイベントビューアのシステムログに以下のエラーログが残る場合があります。これは、Windows Vista以降、対話型サービスが推奨されなくなったことによりですが、動作に影響はございませんので無視してください。

ログの名称: System

ソース: Service Control Manager

イベント ID: 7030

タスクのカテゴリ: なし

レベル: エラー

キーワード: クラシック

説明: SGUPSSetviceサービスは対話型サービスとしてマークされています。

システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。

このサービスは正常に機能しない可能性があります。

Windows 8、Windows Server 2012 をご使用になる場合の制約事項

Windows 8、およびWindows Server 2012では、従来のデスクトップ環境に加えて、アプリ環境（モダンUI環境）があります。

SANUPS SOFTWAREは、アプリ環境には対応していませんので、アプリ環境を使用している場合は、ポップアップメッセージを表示することはできません。

ただし、デスクトップ環境を使用している場合は、ポップアップメッセージは表示されます。

アプリ環境で使用している場合も、**SANUPS SOFTWARE**からのシャットダウンは問題なく行われます。

付録B Linux版をお使いになる際の注意事項

インストールの前に

Linuxでは、使用目的に応じたシステム構築を容易にするために、いくつかのインストール形態が用意されています。そのため、インストール形態によっては、本システムが必要とするパッケージがインストールされない場合があります。

以下に、不足する可能性のあるパッケージを示します。インストールの有無を確認し、インストールされていない場合は、OSインストールCDからインストールしてください。

<インストールの確認>

例) RedHat Enterprise Linux 5 (Itanium) の場合

rpm -q libXp

インストールされている場合は、「libXp-1.0.0-8」と表示されます。

Linux OS	パッケージ名	ファイル名
Red Hat Enterprise Linux 5 (Itanium)	libXp (※1)	libXp-1.0.0-8.ia64.rpm
SUSE Linux Enterprise Server 9 (x86)	setserial	setserial-2.17-577.i586.rpm
SUSE Linux Enterprise Server 9 (AMD64、EM64T)	setserial	setserial-2.17-577.1.x86_64.rpm

(※1) GUI版のツールを使用する場合には、インストール必要となります。

ターミナルウィンドウへのメッセージ表示について

以下のOSをお使いの場合、イベント発生時に表示されるべきメッセージが表示されない場合があります。これは、ターミナルソフト「**Konsol**」（デフォルトインストールバージョン）をご使用の場合に発生する問題です。日本語の表示が可能な他のターミナルソフトを使用するか、「**Konsol**」をアップデートする（*1）必要があります。

SUSE Linux Enterprise Server 9

（*1）：ウィンドウマネージャ「**KDE**」をバージョン3.3にアップデートすることにより「**Konsol**」もアップデートされます。

Red Hat Enterprise Linux 4のご使用にあたって

GUIツールの起動時に以下のようなメッセージが表示され、GUIツール上での日本語入力ができないことがあります。

```
java.awt.AWTException: cannot open XIM
```

```
at sun.awt.motif.X11InputMethod.<init>(X11InputMethod.java:144)
```

```
at sun.awt.motif.X11InputMethodDescriptor.createInputMethod(X11InputMethodDescriptor.java:73)
```

```
at sun.awt.im.InputContext.getInputMethodInstance(InputContext.java:686)
```

```
at sun.awt.im.InputContext.getInputMethod(InputContext.java:636)
```

```
:
```

これは、**X-window**のインプットメソッドについてのエラーで、日本語インプットメソッドが「**IIIMF**」となっている場合に発生します。

（デフォルトのインプットメソッドは、「**IIIMF**」です。）

インプットメソッドを以下の手順で変更する必要があります。

<手順> ～ ウィンドウマネージャがGNOMEの場合 ～

1. 「アプリケーション」メニューより「システム設定」-「入力メソッド選択」を選択する。

2. 「有効な入力メソッド」にて、

高度な設定 : Japanese-日本語

入力メソッド : kinput2-canna または kinput2-wnn(iiimf以外)

を選択する。

3. **X-window**を再起動する。

Red Hat Enterprise Linux 5のご使用にあたって

Red Hat Enterprise Linux 5の日本語環境でGUIツールを使用する場合、テキストボックスへのキー入力が行えなくなる事象が発生する場合があります。

これは、特定バージョンのJavaと日本語入力メソッドのSCIM(Smart Common Input Method)とを組み合わせ使用した時に発生する場合があります。

このような事象が発生した場合、テキストボックスへのキー入力を行うようにするには、一時的に日本語入力メソッドのSCIMを無効にさせていただく、または別の日本語入力メソッドを使用するよう変更していただくと、事象を回避することができます。

以下に入力メソッドの設定を変更する方法について説明します。

<手順>

1. 「システム」メニューより「設定」-「他の個人設定」-「入力メソッド」を選択する。
2. 「入力メソッド設定ツール」にて、
 入力メソッドを使わない
 カスタム入力メソッドを使う
 のいずれかを選択し、「閉じる」ボタンを選択します。
3. 上記2. の設定は、次回のログインから有効になるため、一度ログインを仕直します。

SANUPS SOFTWAREの設定等が終わりましたら、上記の手順から変更した、入力メソッドの設定を元に戻してください。

関連情報：

MIRACLE LINUX Asianux Server 3 をお使いの場合においても、上記内容と同じ事象が発生する場合があります。

MIRACLE LINUX Asianux Server 3 の場合も、一時的に日本語入力メソッドを無効にします。対応方法は、「SCIM 入力メソッドの設定」を使用し、IM エンジンから日本語を無効にします。

VMware ESX Server でのファイアウォールの設定について

VMware ESX Server はデフォルトで、ファイアウォール（セキュリティレベル：高 *1）が有効になっています。

*1 ポート:902、80（http）、443、22（ssh）以外の着信、発生をすべて遮断

ファイアウォールが有効の場合、UPS 管理ソフトはネットワーク通信を行うことができなくなります。UPS 管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合*2は、**esxcfg-firewall** コマンドを使用して、UPS 管理ソフトで使用するポートを開く必要があります。

*2 サーバークライアント構成の場合、または LAN I/F 付き UPS に接続する場合

開く必要のあるポートを以下に示します。（**esxcfg-firewall** コマンド例も示します。）

＜**VMware ESX Server**（ホスト）が UPS とクライアント接続の場合、
または、LAN I/F 付き UPS とネットワーク接続する場合＞

説明	ポート番号	方向	コマンド例
セッション確立用	30000/tcp	out	esxcfg-firewall --openport 30000,tcp,out,TCP-30000
CUI ツール接続用	30003/tcp	out	esxcfg-firewall --openport 30003,tcp,out,TCP-30003
通知受信用	31000/tcp	in	esxcfg-firewall --openport 31000,tcp,in,TCP-31000
ツール接続待ち	31001/tcp	in	esxcfg-firewall --openport 31001,tcp,in,TCP-31001

上記コマンドの設定を反映するために、以下の操作を行います。

①UPS サービスを停止する。

/etc/init.d/sg4lite stop

②VMware-hostd プロセスを再起動する。

service mgmt-vmware restart

③UPS サービスを起動する。

/etc/init.d/sg4lite start

Red Hat Enterprise Linux のファイアウォールの設定について

ファイアウォールが有効の場合、UPS 管理ソフトはネットワーク通信を行うことができません。

（ファイアウォールが「無効」に設定されている場合は、問題ありません）

UPS 管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合（※）は、ファイアウォールを無効に設定するか、UPS 管理ソフトが使用するネットワークポートを開放する必要があります。

（※）UPS 管理ソフトのサーバ/クライアント構成、または LAN I/F 付き UPS に接続する場合

ファイアウォールを無効にする場合、以下のコマンドを実行します。

```
# service iptables stop
# chkconfig iptables off
```

Firewallの設定ツールからも設定が行えます。

また、個別にポートを開放する場合は、`/etc/sysconfig/iptables` にポート設定を記述します。

（例：通知受信用の31000/tcpポートを開く場合の設定例）

```
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 31000 -j ACCEPT
```

SANUPS SOFTWAREが使用しているポートについては、ユーザガイド「付録E 使用プロトコルおよびサーバポート」に一覧が記載されていますので、こちらを参照してください。

（iptablesコマンドについては、マニュアルを参照してください）

関連情報：

MIRACLE LINUX Asianux Server 3、MIRACLE LINUX V4.0 をお使いの場合も、上記のコマンドを使用して、ファイアウォールの設定を行うことができます。

SUSE Linux Enterprise Server でのファイアウォールの設定について

UPS 管理ソフトを使用してネットワーク通信を行う場合（※）は、ファイアウォールを無効に設定するか、UPS 管理ソフトが使用するネットワークポートを開放する必要があります。

（※）UPS 管理ソフトのサーバ/クライアント構成、または LAN I/F 付き UPS に接続する場合

「YaST」ツールを使用してファイアウォールの設定を行うことができます。

GUIツール版は、メニューから起動することができます。

CUIツール版は、コンソールから「yast」を入力し、実行します。

ファイアウォールの「有効／無効」を設定する、または使用を許可するポートを個別に設定することも可能です。

付録C UNIX版をお使いになる際の注意事項

Solaris版のご使用にあたって

(1) システムパッケージの追加インストールについて

Solaris8 ～ 10の場合

SANUPS SOFTWAREを動作させる場合は、以下のパッケージがインストールされている必要があります。

(**pkginfo** <パッケージ名> コマンドを使用し、パッケージのインストール有無を確認できます)
インストールされていない場合は、OSインストールCDからインストールしてください。

パッケージ名	説 明
SUNWjui8	パッケージがインストールされていない場合、 ・ GUIツールでは、通信異常となりUPSとの接続設定ができません。 ・ CUIツールを使用してUPSとの接続設定はできますが、停電発生等のメッセージがターミナルおよびメッセージBOXに表示されません。
SUNWuiu8	

Solaris11の場合

SANUPS SOFTWAREを動作させる場合は、使用方法により以下のパッケージをインストールする必要があります。

(**pkg info** <パッケージ名> または、**pkg list** コマンドにてパッケージのインストール有無を確認できます)

以下のパッケージがインストールされていない場合は、パッケージレポジトリから追加パッケージをインストールしてください。

< **SANUPS SOFTWARE**日本語版をインストールし、GUIツールを使用する場合 >

パッケージ名	説 明
library/motif	GUIツールの表示に必要です。インストールされていないと、GUIツール起動ができません。
system/library/iconv/unicode	インストールされていないと、GUIツールでの設定中に通信異常が発生します。
system/locale/extra	日本語メッセージ表示(コンソールメッセージ、ポップアップメッセージ)に必要になります。
system/library/iconv/extra	
system/font/truetype/fonts-core	GUIツールの日付表示などで表示エリア内に入りきらない表示が改善されます。

<SANUPS SOFTWARE日本語版をインストールし、GUIツールを使用しない場合>

パッケージ名	説 明
system/locale/extra	日本語メッセージ表示(ターミナルメッセージ、メッセージBOX)に必要なになります。
system/library/iconv/extra	

<SANUPS SOFTWARE英語版をインストールし、GUIツールを使用する場合>

パッケージ名	説 明
library/motif	GUIツールの表示に必要です。インストールされていないと、GUIツール起動ができません。
system/font/truetype/fonts-core	GUIツールの日付表示などで表示エリア内に入りきらない表示が改善されます。

<SANUPS SOFTWARE英語版をインストールし、GUIツールを使用しない場合>

パッケージ名	説 明
—	パッケージ追加なしに使用できます

(2) Zoneの使用について

Solaris 10以降 をお使いの場合

Zone(non-global-zone)を構築している環境の場合、本システムは**global-zone**ヘインストールし、**global-zone**において使用してください。

global-zoneヘインストールした本システムを**non-global-zone**から使用することはできません。

(3) CD-ROMのマウントについて

本製品のソフトウェアはCD-ROMからインストールを行うようになっています。

通常、ボリュームマネージャによってCD-ROMをトレイに挿入すると、自動的にマウントされます。CD-ROMをトレイに挿入しても、自動マウントされない場合は、ボリュームマネージャが動作しているか確認してください。

```
# ps -ef | grep vold
root    254      1   0 19:53:30 ?          0:00 /usr/sbin/vold
root    587    586   0 20:46:28 pts/5    0:00 grep vold
```

※ Solaris11では、**vold** に代わり、**rmvolmgr** になります。

ボリュームマネージャが動作していない場合は、以下のコマンドにより起動することができます。

(Solaris8~10の場合)

```
# /etc/init.d/volmgt start
```

(Solaris11の場合)

```
# svcadm restart rmvolmgr
```

手動でマウントする場合は、

```
# /usr/sbin/mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t6d0s0 /cdrom
```

のようにします。

（動作環境により、デバイス名など変わる可能性があります。お使いの環境にあわせた設定を行ってください。また、コマンドの使用については、マニュアルページなどを参照してください）

HP-UX版のご使用にあたって

（１）OSパッチについて

HP-UX 11i v1 をお使いの場合

CUIまたはGUIツールを動作させるには、リンカー（ld）のパッチがインストールさせている必要があります。

確認の目安としては、

11i v1の場合、 **PACHI-ID PHSS_26263**以降

のOSパッチがインストールされている必要があります。

（`/usr/sbin/swlist -l product | grep ld`コマンドを使用し、OSパッチの情報を確認できます）

上記パッチがインストールされていない場合、CUIまたはGUIツールが動作しません。

また、GUIツールを動作させるには、上記以外にJava環境に必要なパッチがインストールされている必要があります。Java環境に必要なパッチは、以下のサイトを参照してください。

<http://www.hp.com/products1/unix/java/patches/index.html>

Java環境に必要なパッチがインストールされていない場合、日本語が正しく表示されません。

（２）HP-UX11iv2環境でのGUIツール使用について

HP-UX11iv2環境では、GUIツールの動作が非常に遅くなる場合があります。

このような場合は、CUIツールを使用して設定を行っていただくか、他にクライアント接続されているコンピュータがある場合は、そのコンピュータからGUIツールを使用して設定を行ってください。

GUIツール以外の動作については、問題はありません。